

體源抄

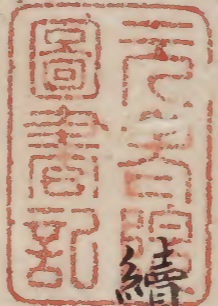
十二

内閣文庫			
九	九		和
九	二		書
函	三		
六	四	七	
架	冊	號	類

内閣文庫	
番號	和 9227
冊數	34 (15)
函號	199 133



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり



教訓鈔卷第十一上
文永第七歲庚午

唐糸舞師狛宿祢朝葛撰

吹物部



第一答笙 第二箏 第三拍笛 第四太笛
第五中管 付東遊 又演立以在 第六尺八 第七諸樂秘傳
拵今注ス所ノ吹物ノ類ニ且數アリトイヘトモ未夕此朝ツクハラヌモ

アリ又ラソツカラワタレルモ人スルワサヨシラスユニ徒ニ其寺ノ宝藏ニ
納ラレテ只名ノミコルモアリコノ内ニモ大箏箏ハ長秋卿ノ御
在生トハ侍リケレモ其後ハ誰人吹傳ハタリトモミマス但康保ノ
條時ニ吾水清貞ト云テ子宛ニカレタリ其外ハミエタルモ今吹
トカハ小箏箏ニナリ尺八又南宮親王慈覺大師ナトツハサタリ

ケルホカ吹タリトミヌ中管近來モ千七サルウハ道ノスタシユク
ユトホノ母カ子テラシハカラレテナケカシク侍リ當時伶人ノモチイル
トヨ答生ハ洋朝ノ所造黃帝ノ御世ニ作り出セリ而シテ我朝一
傳來ユト何ノ御トキトシルセルモノナシ推古天皇ノ御時条人
ノタリ聖德太子此道ヲヒロメ給シカトモ皇トイフ事ニス文武
聖武西帝ハ御時ノ皇ツモテホラ奏シタリトイフハニニテ侍ル
今我朝ニハ堀川関白昭宣公ニシモテ皇ノ祖トシタテマツリ其弟子
八条大將保忠其御弟子少納言行見也御弟子小治田有秋也子
辰之也子檢非違使公元其弟子赤市依和迄部時信其弟子
同市依豊原時光ナリ彼等ノ流トイハモ今ハ豊原ニモテ皇ノ率
定タリ筆彙ハ漢武帝時作り出ス前漢筆彙ハナリ我朝開化天皇ノ
御宇ニアタリエリ是又此國傳來ニエタルモノナシ我朝ニ大石富門

シモテ此曲ノ祖トス其子九衛門尉同富門 村上天皇三当曲

サツケタテシ其御子後中局五其御子土御門右大臣其御子
堀川右大臣其御子中納言源師時其御子安藝掾守源師任彼父
子ノ御流ハ今源家ハ筆彙ト名テ南京拍氏筆ヲ專ラ傳之
又金田府生和迄部用光トテ此道ノ達者アリヤ子光枝也子則光
也弟子拍光則此又同拍氏ノ筆彙ナリ光枝カ弟子時近
其弟子時貞也弟子貞時也弟子又師任也弟子仁和寺
法師伊賀法橋慶信其弟子三宅成貞改名正光也仍三宅氏
アリ其子守正其子正枝也弟子中原近茂仍中原氏アリ彼
茂光カ弟子正野守藤尔敦家ト申テヨリ是ヲ傳タル人ニシキ
其子敦後守敦俊舎分刑部卿敦兼也子正三位季行弟子多
好方弟子季正弟子安部季遠此後安部氏アリ

横笛、或黃帝ノ御時ヨリ作リ始メ、或ハ漢代ニ始ルト云推古
天皇ノ御宇、妓果ヲウタサレタリケルトキ、妓、樂、具、樂、ニハ專ラ、笛
アルヘキモノナシ、汲リテソ侍リツラムシカレトモ、尾張濱主、和
遣唐ノ、ナ、是ヨ、弘ム、仍濱主、此器ノ祖トス、其子、淨藏、貴也
其子、石城、正枝、其子、左近將監、戸部、好多、其、智、雅、樂、允
玉手、近、其、智、戸部、正、近、此流ノ、戸部、氏、ト、イフ、正、近、カ、弟、子
左近將監、大神、是、季、具、智、行、高、仍、狗、氏、ノ、笛、ヲ、ニ、始、ル、是、季
カ、弟、子、基、政、大神、ノ、姓、ヲ、ウケテ、大神、笛、コレ、ハ、シ、マル、是、季、カ、弟、子
清原ノ、助、貞、姓、ヲ、アラタメテ、仍、清原、氏、ノ、笛、アリ、此、外、昔、モ、キ、コ、シ
笛、吹、ト、モ、ヤ、ナ、カ、レ、相、続、セ、サ、ル、ウ、ハ、シ、ル、ス、ニ、ヨ、バ、ス、太、方、龍、鳴、曲、ハ
重、代、氏、申、ツ、シ、狗、氏、嫡、ノ、笛、吹、則、房、ノ、子、宣、近、ト、申、シ、人、左、實、
リ、ニ、ヨ、リ、テ、笛、曲、ヲ、ウ、タ、ス、而、尙、彼、則、房、祖、父、判、官、ヲ、奏、子、ト、メ

建仁三年二月二日、ニイタマテ、嫡ノ、笛、曲、一、事、ヲ、ウ、タ、ス、相、傳、シ、早、又、即、其、
年ノ、常、条、會、ニ、中、門、ノ、四、笛、ニ、立、テ、一、會、ヲ、吹、終、テ、早、舞、人、タル、ヨ、リ、テ、
カ、存、シ、其、次、女、只、舞、ノ、舞、人、ノ、如、シ、狗、氏、舞、人、中、門、笛、ニ、立、テ、コレ、ヲ、始、メ、
ケル、ナリ、其、後、寛、治、元、年、二、月、ノ、常、条、會、ニ、則、房、ノ、孫、則、定、音、男、
光、繼、ヲ、シ、タ、テ、兩、曲、ヲ、カ、セ、早、仁、治、之、年、二、月、ノ、常、樂、會、則、定、カ、一、男、
定、氏、ニ、又、兩、曲、ヲ、カ、セ、早、予、又、幼、少、ノ、片、狗、有、各、侍、ヲ、受、テ、形、
コ、ト、ク、弘、長、二、年、ノ、常、樂、會、ニ、兩、曲、ノ、名、ヲ、ナ、シ、畢、然、ト、去、任、本、道、ニ、アラ、
サ、ル、ニ、勢、古、モ、セ、サ、レ、ハ、些、覺、悟、モ、セ、ス、ワ、ツ、カ、ニ、孫、ノ、狗、子、ヲ、シ、ラ、ン、タ、メ、ニ、ロ、ノ、
ア、テ、タル、ハ、カ、リ、ナ、レ、ト、モ、此、器、ニ、ワ、キ、タル、口、傳、モ、ノ、カ、タ、リ、ハ、所、見、ニ、マ、カ、セ、テ、シ、ル、
シ、ノ、ス、未、ノ、世、ニ、ト、カ、大、要、ノ、事、モ、侍、ラ、サ、ル、ヘ、キ、ハ、ニ、坐、ハ、愚、父、故、道、
豐、監、忠、秋、ニ、ア、ヒ、テ、大、畧、ノ、コ、ル、ト、コ、ロ、ナ、ソ、コ、レ、ヲ、傳、ル、ハ、秘、曲、ノ、コ、ラ、ン、
ヲ、ハ、先、例、アル、ユ、ニ、ハ、由、ヨ、リ、ウ、ツ、ス、ヘ、キ、ヨ、シ、忠、秋、將、監、祖、父、判、官、ニ

甲約未ノ間笛ヨリウツセル曲モアリ彼契約有祖々日記ニニアリ
次ニ草葉ハ祖父刺官トキ村上天皇ノ御未安誓守源師伴
申シ人ノ御侍ニテ尾張則成ト申シ奈人ニアヒテ秘曲ヨキハ畢
彼源家ノ草葉狗氏ノフリトコロハミナカノトシナカレナリ承久元年
正月尚院御所ニシテ勅定ヲ承テ小調子ヲキ給仁治元年二月
常葉會ニ息男光菖ハ時成カ子童守五俗名時菖ヲシテ
而曲ヲカセテ加入道則正嘉元年ノ常樂會草葉蘭如ノ時
寺家ノ仰ニヨリテ中門四ノ草葉ニ立テコレヲフリ三宅ノ守保ハ
正光四代ノ草葉吹ナレトモ秘曲昔ヨリカナハサレ間文永五年ノ
常葉會ニ彼弟子ニ成テ而曲ヲフキ畢其後同七年十月四日
法皇宸筆御經供出嵯峨殿ニテ習礼ノ日皇帝一具万秋葉
一具アリシトテ重テ共節ニアヒ早如之大神是産ハ具貞入道

法名女山ニテライラ吹トイハ建法元年常葉會ニ而曲ヲフキシトキ
ハ又弟子ナリテ吹草葉予ハ此器ヲツタヘストイハ同年十二月十三日
仁和寺舍利會日俄ニ万秋葉一具アリシニ中原貞茂近茂男四ノ
草葉内ニテ忽ニ面目ヲ失テアヒ夕撞ノ意狀ヲイタヌヨテ山笠ニ
予ユルニ草葉則狗定近尤笛ニヨリテ笛ヲカサレトモ秘曲ユルニ又子
細ラ申例ニカセテサタライタス似口傳古実ヲハ存知セシムルアヒ夕シ
ルハ事ニカナリ

第一荅笙者 音生

又名鳳管

又名隋笙

形寫鸞翼

笙者 所庚切

夫笙音大以族之氣上春之音ナリ河汾之寶ハ曲沃之懸抱ナリ

邠魯之珍ハ汾陽之孤條アリ習ニタル春ノ風ニ離鴻ノ露務ニ
咽カコトシ蒼々ノ光秋月ニ別雀ノ霄ニ鳴ニ似タリ况又五子音カ
緜嶺ニ遊シ一聲ノ鳳管ヲ送り携天子ノ騷地ニ宴セシ教曲ノ
鸞吟ニ和ス条ノ声ウツク後テ室ニ尺コトツテ欵悲ノ音奏シテ坐三列テ
泣ク誠ニ是陽陽道ニ達シ風俗ノ源ヲ易ナリ

釋名曰音生俗ニ云竹之母曰匏薄交返俗ニ以瓢為之空保竿名是也

竿清其中受音黃簧俗多太於管ノ既ヨコツ按テ抱於口中ニ

曰曰笙ハ生也物ノ地ノ貫テ生スニ多クナリ又簧ナリ匏ヲモテ

己ウワクル故ニ匏トイフ竿又是ナリ其中空シテ以テ簧ヲ受ル

ナリ 今按曰竹之母曰匏

混天圖ニ云ク笙ハ女媧氏カ作ルトコロナリ十九ノ鳳演ニ立テ

鳴聲程シナリ女媧コレヲキテ解谷ノ竹ヲ切テ笙ヲ作ル

仍稱テ鳳管ト名ナリ 禮記ニ云ク女媧笙ヲ造ル

或云女媧之笙簧ト云ク 文選注ニ云ク女媧氏笙竿ヲ作ル

切韻ニ云ク女媧カ作ナリ 世本ニ云ク或糸本 隋笙ヲ作ル

列仙傳ニ云ク五子喬笙歌ヲ作 或云王子晉ト云ク塢嶽

山トイフ山ヲスルニ鳳凰ノナクユエヲキテ造テ吹習フ故ニ鳳管ト

云ト云ク吳都賦ニ云ク蚺笙管ヲ象ル 祝文ニ云ク笙正月ノ

音物生故ニコレヲ笙トイフ十三簧アリ鳳ノ声ニ象ル宗韻ニ云

匏薄交切 笙ハ干ヲ為ルヘシ 遊方向録ニ云ク竹ヲ籟トス匏ヲ

笙ト云ク廣雅ニ云ク笙匏ノモテコレヲツクル十三管宮管九方旁ア

リ爾雅云大笙コレヲ巢サウトイフ小者コレヲ和トイフ

郭璞カ云大笙管ヲ 匏ノ中ニ列テ簧施スナリ管ノ端ニ大

者十九簧小者十三簧榘為舍人ノ云大笙音声衆ニシテ

高三小者音相和ナリ 摺本云相知ト云

白虎通ニ云ク笙之言施也方物始施テん乎笙者大族ノ氣ナリ
万物生スルニ象ナリ故ニ生トイウ 同云ク笙七政ノ節アリ六合
和アリ天下条之故ハコレヲ笙ト云

今案史記律曆曰正月律泰族ニアル泰族言万物族生也
耶鄭五經折疑ニ云夫笙万物ノ始テ生スル法ハ陰陽ノ氣ヲ導達ス
故ニ長短アリ黄鐘ヲ始ス鳳凰ニ象リ法ハ 五經要義ニ云笙ハ
管ヲ匏内ニ列ラ黄ツ管ノ端ニ施スナリ

蔡邕月令章句ニ云季秋同上下入學習吹笙氣ヲ通ス故也
同云宮管九方旁アリ十九簧十三簧ニ至テん生トイフ
又云管籥笙芋埙篪皆以吹鳴者也

携天子傳ニ云西王母吟月吹笙鼓簧笙中中心翔ニシテナリ

尚書益稷ニ云笙鏞以間鳥獸踏

孔安國カ云送ナリ笙ヲ吹キ鼓ヲ擊テ鳥獸德ヲ仰テ相率曰
舞踏

潘安仁カ笙賦ニ云非天下之和条不易之法音且執カ
能ク與於此乎

同云嚶々關々タル離鳴ノ子ニ鳴カコトシ

又云惟簧也能群聲ノ清ヲ研研惟笙也能衆清之林ヲ摠摠

洛都賦ニ云志松子笙ノ鳴シ五子年ヲ吹

初學記ニ云魏杜夔善ク笙ヲ吹ク

鮑溶詩云心ニ羨周ノ靈王ノ太子碧桃花下好笙ヲ吹

百詠ニ云懸匏ハ曲沃ノ上孤篠ハ汶陽ノ隈形字歌鸞翼

聲隨舞鳳哀歡娛自北里純孝即南陔今日虞奏テ

踏ミトニテ鳥獸來

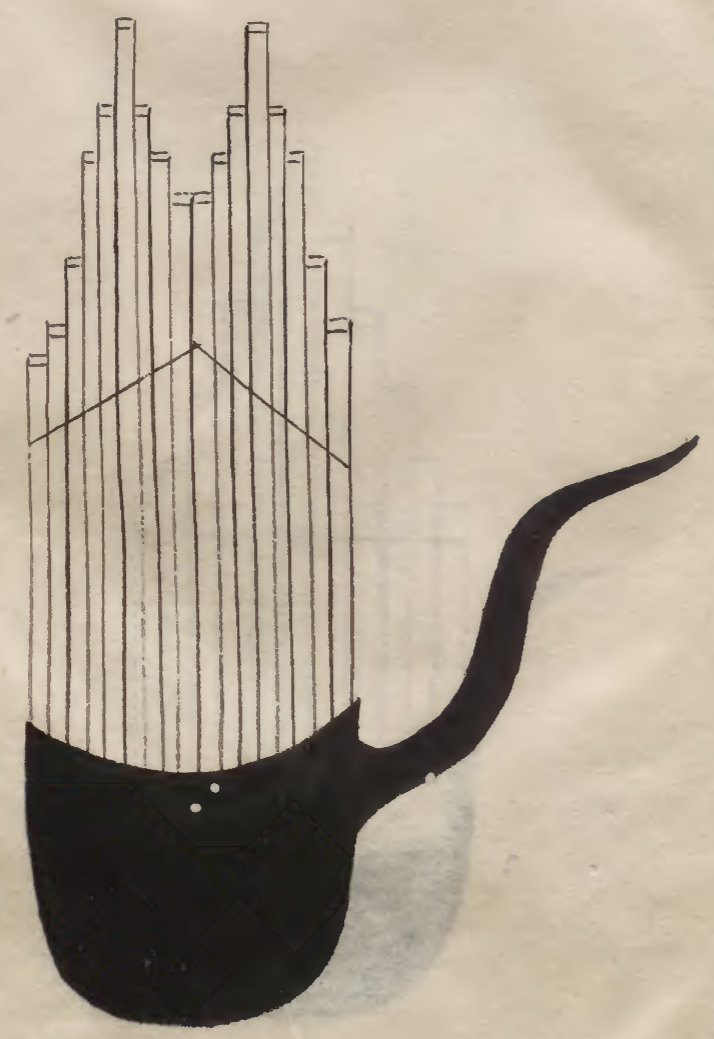
止觀第一ニ云崑竹キラサレ鳳音アラハス情性練セサハ神明
登セストイリ

笙 鸞翼 鳳音 鳳哀 懸匏 孤篠

文集ノ詩ニ云摧竹蔵絲不足聞

今案之云摧竹者笙ノ簧弱ケルハ音不堅強也云
蔵絲者彈弦音蔵不奏也

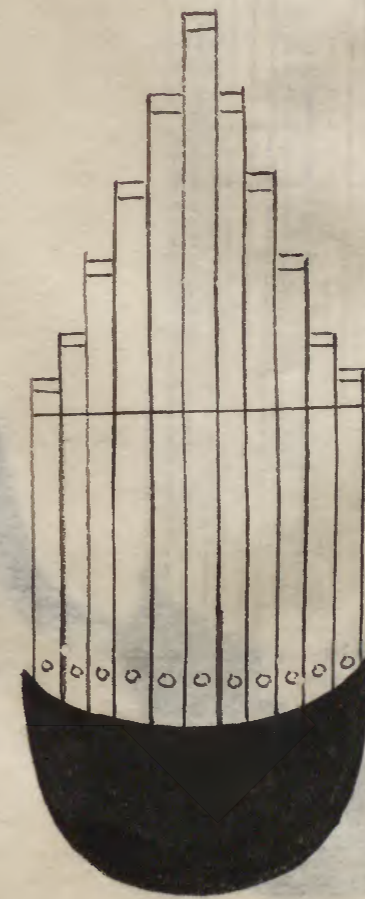
笙



鳳笙



巢笙



笙長一尺八寸 圍七寸
 管十九今十七 簧笙中古也

竹穴名者

千^比十^毛下^九乙^九工^上美^{行七}一^八也^也言^八七^一行^美上^九乙^七
 乞^下毛^十比^十從端短笛
 記順計之

又斗卜此兩竹糸此朝傳云又此竹ノ中ニ
 之夕十キ竹ハ也毛ノ兩竹十リ是ニ廢射香ヲハ入ルナリ。



同名物

大蚪氣^{シキキ} 或本大蚪界^キ 小蚪氣^キ 或本小蚪^キ

播皮^{イナカ} 吾不替^{イナカ} 又替不替 又替或作

交丸^{イナカ} 新交丸^{イナカ}

達智門^{ウチカ} 小笙^{ウチカ} 雲和^{ウチカ} 或雲和 唐山名

蜂丸^{ウチカ} 来置丸^{ウチカ} 小唐笙^{ウチカ} 法華寺^{ウチカ} 無名^{ウチカ} 菊丸^{ウチカ} 或菊丸

一管^{ウチカ} 袖丸^{ウチカ} 懷丸^{ウチカ} 下腰^{ウチカ} 古屋丸^{ウチカ}

甲乙之音次第

乞乙 黃鐘調之音律

一丁 盤涉調之音律

工美鳳音調之音律

七斗鸞鏡調之音律

十十 新金調之音律

比也 神仙調之音律

丸行 壹越調之音律

乙十 平調之音律

ト比勝純調之音律

十上双調之音律

丁言 龍吟調之音律

美七 鳧鐘調之音律

立舌作法

凡調也ノ音ノ舌ヲモテ千ノ竹 立千ノ音ノ舌ヲモテ八ノ立八ノ音ノ舌ヲ
モテ上ヲタツ上ノ音ノ舌ヲモテ言ヲタツ言ノ音ノ舌ヲモテ比ヲ立比ノ
音ノ舌ヲモテ七ヲ立七ノ音ノ舌ヲモテ斗ヲ立斗ノ音ノ舌ヲモテ
行ヲ立行ノ音ノ舌ヲモテ美ヲタツ美ノ音ノ舌ヲモテ十ヲ立十ノ
音ノ舌ヲモテ下ヲ立下ノ音ノ舌ヲモテトヲ立トノ音ノ舌ヲモテ
乙ヲ立乙ノ音ノ舌ヲモテモテ立モノ音ノ舌ヲモテ丸ヲ立凡ノ音ノ舌
ヲモテ上ヲ立上ノ音ノ舌ヲモテ一ヲ立一ノ音ノ舌ヲモテ乙ノ竹ヲ立乙ノ
以微音舌次第立大音舌竹置鐘為杖調也

調作法

先管ヨリ竹ヲスタ但長竹ヨリコレヲスクヘシ塗テ音石脂ヲ差本
続蟬ノ立管但短竹ヨリ立キナリ次圖ヲモテ乙ノ竹ニハス横笛ノ
穴ノ音也

乙ト圖ト調乙ヲモテセラ調フ甲乙又乙ヲモテハラ調フ音セラ以一ツ

調フ音一ツ以下ヲ調フ乙下ヲ以言ヲ調フ甲下ヲ以ナク調フ甲日音人

言以エラ調フ音エラモテ美ヲ調フ乙次ニハリ以行ヲ調フ乙行ヲ以乙ヲ

調フ音又行ヲモテ凡ヲ調フ乙凡ヲ以上ヲ調フ音但秘藏口傳云凡ヨリ

犹今微少調也上ヲモテナク調フ甲ナクモテ比ヲ調フ甲乙飲木ニ無ク

次美ヲモテセラ調フ甲乙飲木ニ無クモヲ以斗ヲ調フ乙斗ヲ次トヲ調フ

乙トヲモテ比調乙

調一金ノ寒温用意アルヘシ一説鼻ヲモテコレヲ聞如此ノ口傳ニゲント

イトモ處曲ニアタハスモ也ノ函竹ハ今朝古ヲタテテ六調子ニモテカハ

故ナリ斗トノ二ノ竹ニライテハ末代名ヲ聞コトナシ十七外ノユヘ説ヤ

又用ルヲラエシヤ而異域流吟風音を寄鏡鳥鐘新金

勝絶ホノ六調子アリ件ノ調子專ラ彼四ノ竹ヲ用ト云

又説笙ヲ調ル次第

乙カシラトシテ先圖ニハスサテセラシラフ次ニハラシラフ乙ニセハラヨク

シラフセテ次ニセラモテ一ヲシラフ其ニ下ツアハスサテサイツノハラ

モテ行ヲシラフ見行ヲモテ乙ヲシラフツノをヲヨクシラフツハ

サイツノ乙ニアケナリサテ次ニイヲモテ凡ヲシラフ次ニ上凡ニアハス

次ニ上ニアハス次ニ下ニ下ニアハス件ノ下ニ言ラアハスエラ言ニ

アハスエラモテソ美ヲシラフ次ニハシロノ非ナラハセト言トノアヒツノ

音ニシラフルナリ

併上聲次第

並新竹細長穴ノ名ナリ微太者并上高下長短ヲテナリ

乞守三分ナリ但シ并上ノ一ニ凡七乙ト下十美行斗七比言上ハ
下ト言ノ上トノ條長ナリ
 千也子内裏并氣得ノ并上ノ寸法ナリ也ノ竹ヨリ乞ノ竹ミテ
 合並并増進ナリ也音於納太考由并上高下也
 又云并上ハ太キ竹ハ本ニアケ細キ竹ハスエニアルナリ高舌
 立ハアツクヲロノキナルヲ云工凡一下乙七行骨

笙笛相竹 ツル合フナリ

千下乙七 凡イ美 十上七イ 八美 下一言七 凡美 乙十八乞 工美凡 美言凡七 下七行 行下一凡美
 ハ乙七行 十美 言美凡七 八イ下 七凡千 凡美 上十七イ 八美 十 凡行七美 千工 乞千凡七 八比 上 美千

相竹略頌曰

塞千十上下言七一乙七八工美凡 イ 一乞上
 乞凡上一竹

師説ニ云ク下一竹ハ相竹トイヘ凡条ヲ吹ト千ニル処ニ相竹吹

タクク処ニハ不吹きニ氣三氣十上信処吹ナリヲ吹ニ下吹
 下ヲ吹ニ言ヲ吹

笙笛舌スクロ傳

ハ子テ聞ニ太ケハサキヲトル 細ケハ本ヲトル 太キニハシモシヲトル 細キハ
 シモシヲトル

サキ モト

陶

カキ上 カキ下 細ケハカキアク 太ケハカキサク

管立テ吹州ノシナリ

カヲ指入テ面ハ子上ハ子ヲシスルニナリセハ舌ヲハナチテ子ツキノウラ
 シクルナリ吹ニシナリスレハ本ヲウチ一ヲス一竹ノヲナリニハ中ニシモシヲ
 シクシラフルトキフトクテアワスニハラトキコユホヨクテアハスニハナトキコユ

笙秘事者

陵五荒序 皇帝 團乱旋 一越調ニアリ

入調曲 大食烟ニ子ノ中ニアリ

抑柔ノ面白カラヌハ笙ノ時ノ音ニアワヌトキノ事ナリヨロツモノアレトモ
先^シ笙ヲナラスユ一ナリサレハシラム竹ヲカクハシルヘキナリ笛^ノ算
ノ^ノ策^ノ争^ノ比^ノ巴^ノホハフトクモホソリモナシヤスシ生ハユノヲカナハヌユニ
コレヲ本トシテ^ハ^ハ^ハ^ハ音ヲアハスルナリ

口傳ニ云 柔ノ早クシホユルハヨハクトラハヤメト思フトキハツヨク
トエテ吹トイヘリ打物ノカキアケカキサリト云ル同シ心ナリ
又始ノイキヲアラクハイレストイヘリ又ウカフトイフコアリケナリ
此道ニイテハシリカタキコナリソノ家^ノ人ニトフヘキナリ

名物等物語

蛭界絵^ハ同^ハ七^テ太竹ニアラスツヒラカナル程ナリカハウヌニタヒニ
ヒキマツシタルヤウニ青ノ事ノ外ニ廣ハ竹ノ以外ニ堅キナリ良^ハ生^テ
相カヤウナルヘキカ

又云堅竹ノ青狭シクリタル笙トイヘリサキノ説ニ相違申

又云大キサケエ下ハ人形ノ一寸計ナルヲキサシタリ上ハ鳳皇ヲキ
サシ物^ノ形ヲハ竹ヲコシ^ハ竹ノ皮ヲキサケトリタルナリ帯
ヨリ下ハ黒クニ^ハ竹ヨリ上ハ^ハ新キヤウナリ吹ハ手ヨリトヒツルヤウニテ
竹ノ末ノハラトハタラクヤウナリ其^ハ帯ハ二寸計サカリテ廻タル吹
シメラシテハ^ハ竹ノ首^ノ方^ニルナリ心エテ吹ヘキナリ如^ハ中^ノノ^ハ笙^ノ始^メ
息ヲ^ハ荒^ク吹^テ合^テハ^ハ吸^キ息^ヲ鼻ヨリツメタキ風ノ入テ^ハ息^ハ尽^テツカレ
ツルナリサレハ始^メコシラヘテ吹ヘキナリ

又云二葉^ノ殿^ノ小^ノ蛭^ノ界^ノ絵^ハ只^ハカノサキニテカキタルトイヘリ

江談ニ云少蚪絵ハ名ノ至ナリ一糸院ノ御時此ノ失一
仍カシク杭請サセラル間五七日アリテ御湯殿ノシタリ見付
テ御覽スル空ク以打畢仍カク切早貝後尚甘方至ナリ
又云キサケ五八累代ノ宝物ナリ神冥アリトイヘリ而ニ保延四年
三月廿四日土御門内裏ノ焼巴ニ焼亡一

虫界絵舌替事

堀川院ノ御時寛治七年七月十四日始ラレカ一ラルレヨリ
ナキニ此舌カ一レタル例諸家自記ニニ一スト云リ上古ヨリ不改テ
古キ舌ノマニテアリケルカ公里村忠時元等勅ヲ奉リテ死人
所ニテコレヲシラフ出納ヲ旨仕ト云リ舌カワリテ後舌失卒又
主上驚テ此事ヲ問セ玉フニ時元敢テ左右ヲ申サス公里申テ云
新キ舌ノシタルハトノ事吹和ケテ今後ハ本ノコトヲシラカコレニ

ヨリテ死人等ニ給テイツトナクツカセラレテ次ノ年ヨリ本ノコトク音執
出来リタリケル主上公里ヲ殊ニ御感アリケリ復次ニ美化ノ下向ノヨシ
ヲ奏シケルハ物ナリ船ノ慮外ノ事モ恐アリ陸地ヨリ下向スヘシトフ
勅宣アリケル道ヲ重クシカシメテ事ヲメシクナキ御事ナリ

江談ニ云不替ハ旦ニ生ラ名ナリ唐人コレヲウル千石ニカトイウニ
イナカシトイヘケレハコレヲモテ名トストイヘリ

禅定殿下仰ニ云ク法華寺ト云々名物ナリ此等ノ華山供養
行道ニ糸人久延カ吹ケル六箇モ全クキコサリケリ件ノ能能算ア
侍テ後 堀川院丸テ交凡ニツクテ早 又云交凡新交丸 西

年ニ十喜東ノ家ニアリトイヘリタカ流ニツクワツヤ当時ハ五侍ス
新交凡ハ時元和唐ノ竹ヲ比テ交凡ヲ移シテ作シ其音太妙ナリ殆
藍ヨリモ青キ所ナリハ六侍ハラテ中院ノ由府雅堂ノ詩ニアリ

小唐笙ハフルキ名物ナリ

菊丸ハ大納言澄字家室ナリ而ラ隆保相付テ後不慮ニ
梶井宮ニ進ストイリ

懐丸ハ大宮三位重家秘苑ノ室ナリ寸歩トイ下モ懐中ヲナク
故ニ名トス

下腰一管ハ元カ笙ナリ公直傳之

袖凡字活丸太臣殿ノ室ナリ凡竹口カニ九寸直衣赤帯等ノ袖
下ナリサレタメリ似名トス

法花寺笙息字宮三位吹之有名琴或云法成寺供養ノ日如安
久延トイフ糸人吹ケルニ笙音以外ニ吹テ御堂ノ内ニ海テフ
キニケル

或記云天曆年中ニ元興寺ノ宝苑ニ有る名ノ笙ヲ修理シテニ

ウリケルヲメサントテ義依カ御講經ノ座ニ候ケルニ王上買一カ

ヤト御夕子アリケリ義依申テ云ク彼カウラント申サレ直ニ倍
シテメス一キヨシ申或精或不精云々各件余可倍頃又雲和

古屋凡字御室御時仁和寺ニ大先達アリ仁仙房トイフ大
峯古屋ノ宿ニテフ竹ヲ切テ御室ニマイラス此竹ニテツルニ為名

事シカリ 大峯宿次ノ序

熊野宿 大悲ノ宿云 河崎宿 難波天 山留云 西方宿 難陀嶺云 備宿 水天嶺云

栗谷宿 清淨宿 備別所入宿 六反宿

八重宿 松宿云 吹越宿 相西宿 山西宿

黒坂宿 平枝宿 尾崎 馬摩馬宿 岳子宿

猪尾坂 山崎小尾 宿云 番集山宿 四徳土 嶺云 金剛多論宿 道 般若宿

安日宿 長尾 宿 波栗宿 普理 丹 上空地宿 水飲宿 午寺

湯田井宿 宿 西坂

南村宿

玉来宿 宝冠 峯云

宇河宿 仙在

道氣宿

櫻屋宿 古屋

息智宿 林宿入

白生宿

霧宿 在石尾

金宿

高屋宿

日没宿

東屋宿

八波宿

苔若瑞宿

金地宿

仙洞宿 仙在

雨影宿

雨木宿 夕去

瑠璃宿 又日哉

覺胎宿

奇宿 適入

五帖宿

殿園宿 峯仙在

塔印宿 入

智惠宿 范池 峯云

早奇宿 古場云

牟越宿 峯

平地宿

多宝宿 仙在

箱宿

朴宿 自此下流

多女来宿 仙在

依篠宿

守井宿 宿云

池蛇宿

小池穴 小池宿云

深谷宿

深多輪宿

仙行者 辻峯

塔崎宿 依峯

戒清宿 右南峯云

姬尾宿 孔雀明王

五殿宿 仙宮在

空鉢宿

劍岳宿

十徳宿 仙在

經教經 仙宮在

玉尾宿

楊枝宿

安井小宿 仙在

禪師宿 金剛内

驗法宿 仙石坂

大行事 仙在 杉

車蹄 赤坂云

教法宿 長峯云

吉野屋宿

吉野熊宿

波走多輪宿

小池宿

横尾宿

河那宿

成上宿

千種宿

小行者 仙在 宿在

劍御山 仙在

柏宿

苔宿

七地崎宿

小宿 土宿

大分修宿

兜宿 仙在

龍下宿

眼宿 妙法仙云

小篠宿 仙宮在

神禱仙宿

久津宿

漏出峯 龍王

寺祇菌

老仙宿

今祇園宿

觀音宿 七言也

犬久生尾宿

法禪山宿

青篠宿

金剛童子楯

当就仙宿 祇園

戒煙仙宿

野際宿

初光童子宿

玉熟仙宿

舟治坂本也

己上ノ宿ニツシル小宿トイフ事ニ一ス若夫名トノトニヤ

恙不宿土宿ノフニヤツホツカナリ侍リ大宰トナリタラシ人ニ
タツ子テフシニラヒラクヘキナリ

又云達智門ハ名ノ笙ナリ此笙ノアタモテモテ用達ニアテク件ノ
門ツツル仍世号アリ件ノ笙ツタハリテ大濠殿下ニアリ人テハ
ミスツヒラカナル笙ノ竹堅キナリトイリ声聞孔者侍管

又云不置丸ハ其尔光之カフエナリ時トシ不遂之故以テ彼光元
カ不置丸トイフ

或記云昔漢家ヨリ青石ニテ液ス其内下思ノ石一ヲ時光カ
先祖ニ給ケルナリ御物ニ石ハ悪クテ此俗ル石ハ日出夕キナリト云リ
或人詠ニ云時光公家ヨリ青石ヲ預給青石ト云ハスリテマサレテ
笙ノシタニルモノナリ

勅樂ノ侍ハ用ニラ死去ノキサニ嫡男公里ニユツリ年又ニ友ニ二男
村元新申テ云ク彼石大畧公物ノユトシ御条ノ村若公里ノ流

障リ出未タラハ瀬如ニ及カ彼ヲニ破テ西人ニワカタシムトシモツハ
即 勅許アリテ破ル者ニニ破年 又其内公里ニ破ヲ給年又
光之ヲ代メテ侍テ持テ之ヲ始元一破ヲ給ル利秋養子村社カ
手ヨリコレヲユツリ傳トイヘリ光元カ持トコロノ二果定テ分テ
子息西人ニユツラム故公安公直相当ナリ但シ今世マテコレヲ
ツタヘサル歟

又云一切管法器ハ金截タル音ヲ奏トスナリ而ニ笙ノココロハラフト
鳴ニ美ナシ但シソシモ金截テ聞ルコソ目出ケレ 又云笙ハ息ニヨルト
イ一氏又笙ノ一物ハ別ノ事ナリ出雲ノ前日隆教カキサケエ玉リテ
吹ケル日ハ息ヲホカリシ人ノ笙全ク幽ヘスコツアリケシ彼隆頼極タル
少息ノ人ナリ 又云白川院御在位ノ時公里ヨリ召テ大丸白如波ト云
御ツエニテ給テ勝者ヲ定申ヘキヨシ仰アリ公里由ニ云リ余リ

勝者候ハス只回程ニテ候ト申 仰ニ云 津物ニテ持テ取長ノ御行
向テ之申シムシト云 公里ヲ御使トシテ彼亭ニ向テ此由ヲ申
政長教度コレヲ聞テ金ノ勝者ヲワカストイヘリ公里何カニ答テ
曰御前ニシテ如此申ス而ヲ犹御不守言ニツカハサルナリ時政長
答テイハク天氣何レヲモテ勝ト思食タルノ公里云太丸勝テヨホシ
メセハコソウタカハシメ御スラメト申 仍政長太丸ヲ勝レタルヨシ卷セシメ
畢又天氣杖合ストイヘリ 其後堀川院ノ御時公里ヲ口テ同ク
勝方ヲ向玉フ申ト口前ノ如シ取ニ物ヲ太丸ハ偏ノ音執カナリ
白如波ハ音執ハ大音ナラストイヘリ 祿ニ物ノ中ヲ通テ清ル音ナリ
太丸ハ音執カアリトイヘリ 白如波ニ相比ニ白如波ノ音ハ勝テ聞ルナリ
ト云リ尚白如波ハ勝ト申サシムル歎而ニ 勅条ノ時津物其
勅条人ニ給公里此時白如波ヲトラス太丸ヲ給天氣日比白如波ヲ

訊ス此時太丸ヲトルイカニ公里陳申云ク白如波ハ竹ノナラヒナキ一物ナリ
仍勝ルトウ申ナリ 但シ太丸大条ノ多音ノ善惡ヨイワス音執ヲ上生
ナリ 禪定殿下 仰ニ云ク坐ハカケニシキサケエメテタカリシモノト云
其ニモヲトラスヲホヘシハ太丸ナリト云 時え語テ云 武吉カ辭ニ下女
坐ノ管舎ナキヲ 持来テウル武吉問テ云ク其直イカハカリヤ女云
直法ヲシラス只給ラムニシタカハストイフ 丸指ニ正ヲアタフ女悦テ
コレヲ取テ去ル 武吉コレヲミルニ誠ニ無双ノ坐ナリ 仍其直法ヲ加ヘム
タノニ件ノ女ヲヨク女生ヲ返サントスルソト心ヘテ身内ヲステ、ニルヲトカ
クニテ召返セリ 女ノ云ク上臈ハ思ヒカヒセヌモトテ頻ニウラム 武吉カ
云クカハサントニアラス直ヲマサントテナリトイ、テ今三正ヲ与ヘ早
女悦テ去ル 又件ノ坐調テ後誠ニ直法ヲシラストイヘリコレ御
物ナリテ傳リテ院ニアリト云リ、ノ名ヲホツカナシタコヘシ

神祇伯頭仲云ク二条殿ノ白丸ハ極テ固キ笙ナリ御遊時給シ
吹方ハ誠ニ息カタク笙ナリ案内ヲシラサル人ハコノ笙ヲ志サスヲ
実ハ唐笙ナリ節高キ笙ナリ節ハ廻テ白シ高サナリ公里云リ
時光カ申シハ件ノ白丸ハ此ノ流ノ竹也代ノホニ申アヤリキト云ケル
又云武吉口ツリノ丸ハ依理大夫後醍醐君モトナリ此笙ソ白丸ニ
相似タルト云ク件ノ笙清々ノ借物ニテ時忠給テコレヲ吹ケ舌ツキ
ツリ年又時之コレヲミテ不覺ケテコレヲミケル眞實ニ不覺事ナリ
二丸ハ三宮ニアリ変異ト云、但シ一竹ハ尚白ト云リ
時光云ク笙ノ息ハ廿歳ニテウツナリ而シ其以前ニ横笛及ハ草笛ナ
トラセメツカスハ中ノソノ息カレウスルナリト云リ
又云禪定殿下仰云 堀河院ハ笙ノメテタキ上手ニテ清シケルナリ
然トモ笙ヲ吹ハ息ノ失ルト聞召テアツハサストイヘリ

後一条院御時雲宮貞長 笙吹ノタメ御系中宮夜ノソトニ御不覺
召テ笙ヲ吹キヨシ勅アリ似アサカレイノ御座ニ依テコレヲ吹所感アリテ
宮ノ御衣持色カヲ貞長ニ給ス即給テ家ニ歸テ時光ヲ召テ我
妻ノ衣カヲモテ時光ニ給ト云ク
又云時元ハ時信カ弟子時信カ実子家ノ流ヲお侍ストイトモ亦子
時光ニソコハス似閑在ニ逃夫ト云 又云時光ハ大聡敏イモノナリ
時信ニ隨テ曲調ヲ傳トイ一氏金ク委曲ノ白信ニソコハス只聡敏ニテ
悉ク聞取ナリ公里ハキハメテ遅鈍ニテキ、トルアタハス只聞テ我
ヤウニキ、トレトセメケレハウルトコロナカニソコハス恨ニテ笙ヲステ、繪
師ニナリケルヲ時光心ニイレテ唯人ノ吹ヲキケト云ケレハ又笙ヲ吹年
サレハ公里鈍振ニテ悉ク習タレハ人ノ師ハ神妙ニシケルナリ
又云時光武吉則光公里四人一時ノ笙吹也勅条アル時尤則光也

武吉 公里也而时光早世ノ後宣旨言テ上臈二人ヲ超テ公言ヨ九ニ云
是良氏ヲ崇セラル、ニヨテナリ公茂ハ公里カ一男タリト云トモ取ホノ笙
タリロラシキヲナリサテ公茂カ子光元ハ明遣已講ニアウテ横笛ヲ
モテ後シツタヘタリ

又云公里时忠又其振異ナリ公里ハ面白クヤサシク吹时忠ハ竹多臈
辛ク吹あ人ノ吹ヤウお邊シタリ又时元ハ先公里ニナリ此ニ时忠ニ十
ラフ时忠カ荒キ所ヲスキステハ公里カ直キ物ヲ加テ吹ナリ仍时元ハ
公里カ流ニアラス时忠カ流ニアラス別流ニアリケルナリ

又云时忠ハ笙ニ竹一ハ肺ヲスキステ、吹ニヌカサル时ト回シ振ニ音勢ヲ
アラシムル也调子ニ風情ヲ吹別トイリ是调子ノ法ニアラス又アタテ
シク调子ヲ撰テ三宮ニ進ス次心ニカキツウトイリ是彼大ナル過也
又云或人時ニ問テ云公里ト時忠ト勝劣イカン 时光答テイハク

イカハ折ヲ折ント云时人是ヲ聞テ會尺シテ云ク公里四十餘年父ニ
イヒナリ時忠ハ幼少ナリトイハレ大駭敏ヲ屯シテ云ク又云时光カ
入初平朝ハ公里ニ習ケリ大舍烟ハ時忠ニ習也

又云时光カ弟子三人也伯康資王 筑前守兼後 刑部丞 源義光也
时光カ云ク代ノ末ニ人ノ師ヲシテ善悪ヲ聞知ハ伯也残ノ輩ニヨイテハ
ウケス是傀儡ノ笛トツ申ケルツノ故ニ師ヲシハサル者ヲ意者ニ
吹也シカリトイハトモ伯ニモ入調ヲハツシ一スヨク秘シケル也 修理太行宗又云

时光カハ笙ニテ説アリ一ニハ公里ニサツクル説常ニ云ク脊ノ折ノ如ク吹ニト
云ニニハ时忠ニサツクル説常ニ云ク砂ヲトリテ拵子ニ拍カ如ク吹ニト
云ニ三ハ侍從宰相ニサツクル説ニヨイテハ公達ノツカセ給キヤウナリト云
師説云ク中院ニ云ク我笙ハ本意ヲトルナリ 堀河院ノ御时

本院ニ行幸御遊アリ 御笛始度也 政長朝臣御侍讀トシテ笛ノ

吹琵琶

二條院白殿
信信卿

笙宗後備

和琴中宮大夫師忠筆策鼓家令

繪言ヲ奉テ笙ヲ吹先達宗忠有賢等ヲキナカラ後進ノ身トシテ
清操ニ返ス寔ニ面目ヲラスヤ甘比政長ク多年殿下ノ生ヲキク
ナシ余カクノコトキノ生イテキル奇特トイウニトイヒリ

又云リ公里常ニ悟テ云リ朔子ノ底ナキコトナリ时光ニ四十年ソヒテ
ナラフトイ下モ全クチカラウヨサルヲ等ヲシトイヒリ又公里カ云ク
笙ノ朔子ハ廿年ニ吹得トイヒリ而ニ耐忠ハ廿年ニ朔子ヲ習也故院ノ
仰ニ云リ時忠ハソツロシキ男ナリハ廿年ニイカテカコシホトニ朔子ヲ習
ケントソ仰ラレケルサハ朔子ハカキリナキ大事也或秘口傳ニ云リ
笙ノ朔子ヲ吹キフタト一ヲトリテアラハセリ平調ハ錢木如有銀
枝金葉之可吹也盤涉朔ハ秋野萩女郎花如風吹敷可吹也越
調以金砂石如打金鼓可吹也双朔ハ槌柱如欲登可吹也

黄鐘調ハ山河水如通石間可吹也大食調ハ槌屋玉霰叢如向
渡可吹也又云中比ノ笙ノ笛ノ師ニテ市依时光トキコシカ何レ御
門ニカ内ヨリメシケルニ同シヤウニ荒タル物ト團扇打テ哥ウタウヤウニヨリ
アハセテ大方聞モ入ス御返事モ申サリケレハ御使アサケリテ返
参テカリナシ侍ト祈ヘ申タリケハイトアハレナルヲカナ唱歌シスマシテ
万ヲ忘レタルニソアシテ御門ノ位コソ口惜ケレサルメテタキヲヲ行テモ
ユキカタトソノ始セケル浅光トイシハ等樂ノ師トフタリ畏ルハホソ
唱歌ニシケルトソ後ハキコヘケル

又云土御門大納言宗後时光トイフ笙吹テ弟子也大食調ノ入朔ヲイマ
トテ歳ニテラシヘ申サリケルホトニ五月ノ廿日アマリ雨カキリナクフリテ
クラカリケル夜イテキテフヨヒカノモノヲシヘ夕テマツラント申ケハイフカリテ
トソトノ玉ケルヲ殿ノ内ニテハソツカラキク人モ侍ラム大極殿ノ後セ玉ト

イレケレハサラハ牛車ナト、リヨセテラハシケルニ御トモニ人侍テアリナドテ
時光ヒトリトテカサキテナムアリケル大極殿ニハシタルニ犹ヲホツカナク
侍リトテ続松ヲトリイタシテ更ニ火トモシテニケレハ極ニシノキタルモ、夕
キツルアリケリコレハ夕ノト聞ケレハ武吉トナリケレハサレハゴソトテ夜ハ
ツシ一申サテカヘリケルト申ス人モアリテカハカリ心サシアリトテツシ一ケル
トモ聞一侍リキツルヒカフニカ侍リケン彼武吉モ見道ノ上ナリ
ケルニタレニカタハシケン一人ノタレニナラヒタルト聞セ玉ケルニ道ノキナニモ
アラス法師トカヤノヨシナラヒタルモくアリケルニナニツタヘテ侍リト申
ケレハ犹时光カサ子ニナルキナリト仰ラレケレハ仰ツウケ給リテ名ツ
カキクシテ彼家ニ至リテツシカシマイリテトイハセケレハイトミテトシコロ
カヤウノモユタモノトテツトロキテヨヒケレハ时光ハナクイテニフユツクロヒ
テ井タリケルニ武吉度ニ井テノホラサリケレハツテハ夕トリテヒキホマテ

イカニト聞ケレハ殿ノ仰ニテ御弟子ニマイリタルナリトイハイト心ナリテナニヨカ
玉一キトイウニ大食ノ入調ナムタシラス物ニテウケ玉ラント思ヒ給ルト云
ケレシキカフテ太郎ニテ侍レル公里カマナリケルヲ此童ニヨシ一侍リテ
ノチコソコト人ハサツケタテマツラメコレハ忽ニヨホシヨルマシキフトイハレハ
此君ツタヘラレシ事忽ノフニハアラシトテ名符下リカヘリイテ歳ケル
ノチ心フカクウカヒテキカントスルナリケリ昔ノモノ、師ハカク心フ
カクツヤスクモセサリケルナリ此武吉ハ侍従宰相ノ内ニシコウノ人ナリ
彼武吉申テ云ク大食廻入廻ヲキカテヤ、シ假ナムスラトイ、ケレハ
年素キ、イラレシテスキ給アヒタ又申云ク时光ニ大食廻ノ入廻
フカセサセマシクテ武吉ヲカリシテキカセサセ玉ト切、ニ申ケレハ时光
カマイリタリケルツ武吉ヲ宿衣ノシタニカクシマシクテ入廻フキテキカ
セト仰ラレケレハ时光申テ云ク只今武吉トヤ殿内假テ申ケレハ

ナント仰ル仍大食調ヲ音取ニ今吹テントスルトキ宿衣ノスツウラ、
カニヒキノケ給タリケレハモト、リハ子タル男ノヒムフタノドシテアセミツニ
ナリタルモノヲ、シイタシ給タリケレハ時光モアサマシケニヨモヒ武吉モ我ニモア
ラヌカホシテアキレテヲリケルカタチハシリテニケニケリ時光イカナル事ニカ
做ラント申ケレハ宰相ノタマヒケル年来此男ノ時光ニ入調ヲフカヨキカ
ントセツレハ心ヨクフカセテキカセント思テアリツトモステニフキテントシツ
レハナシ思ニ不便ニラフクログヲホツレハシイタシツルナリトツノタマヒケル
又云公里ヲヤノ時光ニ大食調ノ入調ナラハルニ時光ウセテ後其入調ノ
中ニシロツカナキ事ニアリケレハ心ウクヲロエテ内心ニナケキテスルニテニ
時光未向テ申テ云件ノ所ヲ西ニ及吹テ此宅也ナカケクテイフ其
由カキタル櫓ナトウセタリユメニニケル宅ニカキタル櫓ハ伯顯仲越后傳ハ
タリ其ユメノツイテニ時光申云公里カ余ハ七十二ニテソアラシニルト

イ、ケル公里ハ常ニ申シ七十二ニウセニシカハ其ユメマコトナリケリト世人ニリ
ケレ時光ハユメニ玉ノカフリ七十二トソ申ケル

又云大食調入調ハヨク、秘苑セシム曲ナリ時元ハヨヤノ時光ニハトリ
ツクレテ時忠ニハナラヒケルナラフントテハ時忠ハ回見トイヒナカラ從
者ナトヤウニツカヒテヨク、久クアリテツツシケル時元時忠ニラツク、
イ、ケルヤウ今ハ我ヲコソシヤトタノミタテマツリテ夜昼ツキタマツリ
テスルニ此曲ヲシラテ做公ハイキテモムヤクノ身ニ做一及フキテキカセ
サセ玉トナク、イ、ケルハ時忠尤道理ナリトテツシニテケリサテ今ハ
吹キカントイ、ケルヲヨクコマカニウケタマハリストテ時元不吹ト云ツノ
不吹ヲアヤシキ事ニイ、テ時秀モ常ニ申ケル也

公里カ申ケルハ卒調入調ヨリモ大食調入調ハ秘物ナリトソ申ケル
雅条房時忠ハ櫓別当頼清ト事アリテ宣旨カフリテカクレテ

イッ千トモナクウセントシケルヲ刑部大捕源義光朝臣イトラシカリテ
下野国領所ニツカヒテカラサントラシケルヨロコビニ大食朝入朝ヲ、シ
ヘタリケルニ時忠今秘テ一コトハラトシテラシテケルニ時忠カ兄ノ公重
義光朝臣ノモトニカクシテヲキタルヨシヲキテノ公里行向テ悦ビニケル
ツイテニ時忠ヲハカク月ニアラントシケレハヤク下送タルヨシヲイ、テ
時忠ノハウシロナルヤウシ、ウチニカクシテ義光公里ニイウヤフ時忠ハ
ヤク井チカヘヤリテキ時忠申云ク今ハ世間ニタイテカニ彼一キ身ニモ
彼子ハ後ニモヲホシノシイテニモセヨトテ大食朝ノ入朝ヲシタルナリ
今ハカクツタヘタルナニカ秘セン一及ウテキカセヨトイ、ケレハケニサル事ト
思テ公里吹ノコシタ所ノアリケレト義光物モイワテ公里ヲイタシテ後
時忠イカニモ派ハキラシナシスルト思テ死ス、カカリカチシウテヤウシノ内ニイカ
ロフトニコ、ニツノコトモヤアルマウテヨトイ、ケレハ今ハカキリト時忠思テ

井タルニ時忠コナタヘイテヨトイ、ケレハハイ、テタリケルヲシツクサシテ
ヨトイヒケレハツソロシクナルツノコニ人シツクサシテキタシハツノ時忠ウ
チヒキムケヨトイ、テシツクニムカヘテ時忠カ、ホツツク、トマモリテ
只今テノキウチヲイカニシタリトモタシカハシラト思トモ師ナレハ罪モ
ツウルトツモハユルスナリトテナシアカ月ニ下野国ニ下基テ二年許
ツキタリケル物ハヨク秘ス、キニヨラシメ、時忠云ク公里時忠カ
ハサラニシトリマサラスモタ、アフコソラシトツイ、ケル公里ヲハシロキナリ
イトツニホヒメテタクムラコニヲメタルヤウニ吹時忠ヲ、カミシヤフニヲフィシ
ツニキリテツヨク打ヤウニ吹ト申ケレハ公里申云クヨキ事ハ一ツソアレ兩
方ニツカ子テ吹トアルハイカニトイ、ケレハ時忠云ク仏ノ、リトキ給モ
人ツキコムニシタカヒテトキ給ナリ各カ心サマシシテカヤウニハイツナリ
トソ申ケルサレハ是時忠モエツカサリケル也

三宮仰ニ云リ笙吹公里申云時之八笙ニツテ祝十斗吹ハタカサヲ一
ニテツラヲハサスルヤウニテワロシリン祝ツケテ吹モワロシト申ヲ公里ト
モテ云ク此事心ス一方ニモツカスリン祝ツケタルワロシツケヌモワロシ
トアルハイカニトヒケレハ時光返事云笙リツテハコキアシキカアルヲ
ワキリツケテ吹ハツケタルヨシワロキツツケヌハツケヌカコキナリトナシ
時光ニ申ケルト時光カコキリン祝ワロキリン祝カキタル椿ハ公里宮
進上早時光ハ待後宰相殿ニ調子ニ公達ワカセ給キヤウトテ
双調平調整調此三調子ヲ一ニ奉也似其年習傳テ
春宮大夫殿ニ三位殿所給ニナリ件子ハ時光子トモモ不傳似
時忠ハ三位殿ニナラヒ事ル也又云時之本ヨリ天性カシコクメテ
夕キモノニテ我不知糸ヲモ横笛ノ吹ニ付テ能知糸ノ如ク吹モ
ノハサラモケル一キニ居回ナル者ノホヲナラヒテカミヲカケテホテ吹ニナリ

或云ホハ万歳樂ノ中ニ整調音ヲ吹所ノアリケル今世ニハワカスヒナリ
未吹ニナリト云彼カ、琴ニタフスヒキヤヤ 豊原利秋云ワ吉社
奉未日御供之時列ノ人必馬上ニシテ鼓笛奏スノニ願安楽塩ニ
ニタリ時忠コレキリニ笙ニ和漢ノ竹アリ優美炳焉似彼列ノ人ヲ子キ
テ佗心笙ニ相傳ニテ善ヲヒロヒ庶ラステ、音声コク調元唐竹アヒシ
ワルエニ交丸ト早ス自愛シテ不止手数アリテ門弟刑部丞或兵衛尉
源義光ニ傳云未夕旬月ヲ一ナルニ桃戦ノ夕夕ニ永保義家號ニハカニ奥州ニ
下向時忠唾騎以テ從フイカシトモキカス、テニ今坂ノ関ニイタリヌ
義光アヒカリミテイハク汝ヲナンワカヘラサルヤ思トコロアル我聞ク
師ニ從テ千里ヲモトヲシトセスホタキカス弟子ト方程ニシモムクコトヲ
時忠ニ答テ云ク若ハ契約ヲナシテ歲月已ニ久シク師弟ノ旧好ノミカ
ラスナラ骨内ノ親情ノコトニ而ニ若万死メ難報ニラ公歳六旬、顔齡

遇タリ運命誠リカタシ再会何レノ由ソ
餞別ヲ思ハス今来何ニヨラ
カ必シモ思フトコロアラシヤ時ニ相共ニシタラタルハハ
駕ヲ担カ義光重ノ
相謂テ云傳ルトコロノ名管今シク夷狄ノ郷ニ朽ナントス
トシ若シハ
ラツ糸府ニ置ン若天命ヲマタケセハ返テ得レ時忠外ニ謝シ内ニ
諛アヤシイテ取テ去ヌ

孝道云生師時元ハ東市依時光カ三男也少シテ親父ヲ喪ス秘
曲ヲキロメス仍テ刑部丞源義光ニ師トシツカエテノコトコロ曲調ヲナラ
フ但イマタ大食廻ノ入調ヲツタヘス義光又征伐ノタメニワカニ關東ニ
シモムクニ爰ニ時元タヒニ業ノイマタトケサルタノニハ思フ尤ヲモキコトシ
思テヒツカニ伶友ヲ辞テ 詠後スイサムレトモカヘラヌツイニアサカノ
巖ニイタリヌ 義光カサ子テ 時光ニ云ラ云ク汝國ニアラス謀ニアラス
何ソ俗テ正路ニシモムク志シニ曲ニアルハ授トテ即引テ中途ノ邊ハル

松杉カケラウチハラヒテ甲ヲヌキ楯ヲシキイニシテナクハ入調ヲ授クハル
惟氏山ノ曲ヲ聞カトシ傳ヘ卒テクツハツラヲ案シテ馬上ニ曲ヲメヌタヒニ
餞別ヲ思先途歸ルコト暮雲ヤウヤクハタリテ鳳管ノ餘聲ホ
ノカニシテ消ユ 又云時元ハ宗俊卿ノ弟子ナリ彼卿早世ノ子遺徳
ヲ恋ルコトヤマスツヒニ夢中ニ謁スルコトエテ勇勝破ノ秘訣ヲツタフ
今テ世ニコレヲ時元カク爰ノ説ト号ス 或記云時元荒序ヲ習テ
吹ケルニ時忠ハ生ツツケスニテ聞之葬卒テ彼時忠云ク我荒序習テ
フカルコトノカヒナクウケタマワレ 時忠ハ荒序ハナラハ子トモ横笛ニ生ワ
タルトコロハシリテ侍ル也我ハナラワレタシナレトモ 糸ノ心ケトコロハシラサリ
ケリサレハナラハス時忠ニテ 侍リナントイハケハ世ノ人道理ケリ思ヒタリ
ケレ 又云白河院ノ御トキ時元清方時秀等ヲメシアハセテ
此甲カトモハ 楽ヲウラホ一ツルモトモトコソキコシメセ 今テ時元ヨクキニテ

一人ツ、フカセテヤカテ時元拍子ヲカソ、テ善悪ヲ申セト仰ラレケルヲ
清方時秀トモニモノヲホタルモノニテシナウレシケニ思テ彼ニ先奏
王ツフカセサセシハシマスニ時秀ハ半許ツクテフキサシテケリ古一横
笛フキニツカヌカキリハ吹事ナカリケルヲ末代ノ人カクシホケナリスルホトニ
カルヲフカマシキコトハシイ也但し時元ハ別、事ナリトソ

又云保延三年正月四日朝觀行事ニ輪臺ノイテトシシケルトキ
左条行事ニテ大炊御門ノ右府ノ中將トテフハシケルカス、シマシテ
輪臺ノカキシロノ笙吹雅条属清方左近将曹時秋音取ヲ相論
スルヨシ奏セラレシハ殿下法性寺教院ニ申サセ給ケリ院ヲホシノシ
エサルヨシ仰アリケレハ殿下左大臣花園ニタツ子申サレハ左府仰
ラレケルハ笙事外ニ勝劣アリ先例官ノ上下薦ニヨラス晋代ツ
アラヒモナイラル、トナリ清方ヲモナイラレハ笙ノタメナキ

事ナリト申給ケレハ殿下此曲ヲ条行事ノ司ニ仰ラレケリコレヲキ、テ
中院右大臣大納言ニテフハシケルヲハシメトシテ悦フ人、ヲ、カウケリ彼
右府ハ時秋カ弟子ニテナシハシマシケルユナリ

延喜ノ御門ノ御時内裏ニ笙笛竹ヲウヘラレタリケルカ第ハサナソ
ニテトコロ、ニライテアルヲ御説シテ前中后五兼明親王 延喜時御
子也ツクラセ給ヘル

ツハクヌルタカシハイマタ 鳴鳳ノ管ヲヌキイテタツタカマシル
根ハツカニ 臥龍ノ文ヲ點ス

或説ハ中院雅定カリ笙笛竹ヲ所望ニ申カレタリケル御返事ニ
トモアリ 或説云ク 内裏ノ何盃テ笙笛タケヲウタルナリト云シ
中院右大臣雅定ハ笙ノ上手也時元カ弟子也スコシモタカスウツシ玉ハ
トツ文丸トイウハ笙ヲモツタ、給ヘリ文丸トハ唐ノ竹和竹トナカニス

ノレタルヲエラヒテツクラレタルトナシ

交丸トイウ生ノ笛ハニツ侍ルナル時元カ兄ニテ時忠トイヒモツクリ
ツタヘ侍リムラトイヒテイナリマツリナトイウマツリツクルモノハフキテワタ
リケル笛ノヒトキリトナル竹ノ交テ聞ヘ侍リケル棧敷ニテ時忠ヨヒコセテ
カルハレニハツナシクハカヤウノフエヲコソフカメトテ我笛ナリカキ我ハヒシラ
ノチニトリカニトイヒケレハムラノモノヨロコヒテミナシヨリ玉一リタリトテ
トリカタリケルヲスクシタルヒキアリケル竹ヲヌキカヘテエナラスシラヘ
夕テ、給ヒタリケルハヨロコヒテカニエテナム侍リケル廿交丸ハ時忠カ
子ノ時忠カ傳一侍リシヲ子モ侍ラサリシカ此比父シカ傳一侍ルヲ
時忠カ弟子ニ刑部丞義光ト云ヒ源氏ノ武女ノコトシ侍リシニツシテ
其フエヲモトリコソテ侍リナルホトニ義光アツマノカタニマカリケルニ時忠
モ年カ^{イカテ}年^{イカテ}来ノおと名ヲソリ申サシラントテハルくとユキケルヲ

會坂園ニ至テ此笛ノフシ思ニヤト心エテ我身ハイカニテモアリナシ源
人ニコソ此笛タイカテカツタヘサラントテカニ給リタリケレハツレヨリコソイ
トマコヒテカ(リ)ノホリニケレソノフエヲカククシナシタレ氏時元ハワカ、リ
ケルトキ武吉トテエナラス笛シラフル道ノ物アリケルカトシタケテ
ヨルノミチタトクシキニ時元キツヒキテマカリケレハイトウレシクラモ
ヒテエナラスシラフルヤウトモツタヘ侍リケレハニヤイトコトナルモアル五
ニナシ侍リケル 或記云源義光ハ豊原時忠カ弟子ナリ時秋イハ
タツサナカリケルトキ時光ハウセニケレハ大食調入調ノ曲ハ時秋ニ
ハサツケス義光ニハタシカニツシタリケリ 陸奥守義家朝臣永保
年中ニ武衛家衡等ヲセメケル片ニ義光ハ京ニ依テ彼合戦ノ事ヲ
ツタヘキ、ケリイトマヲ申テクタラムトシケルヲ御ユルシナカリケレハ兵衛
尉ヲ辭申 陣ニツルフロウカケテ 馳クタリケリ近江国鏡ノ宿ニ

ツク日ハナクノヒトカリキヌニアヲハカマキテヒキレエホシ、タル男
シトハセキタルアリアヤシウ思テ、シハ豊原時秋ナリケリアハイ
カニナニシニキタリタルソト、ヒケレハトカクノフハイハテ只御トモツカマ
ツルハシトハカリツイヒケル義光コノタヒノ下向ハモノサハカシキ事假
ニハセリタルナリトモナイ、給ハシト尤本意ナレドコノタヒニヲキテハ
シカルハカラストシナリニト、ムルヲナヲキカスシ并テシタカヒユキケリ
チカラヲヨハテモロトモニクタリテツイニアシカラノ山マテキニケリ
彼山ニテ義光馬ヲヒカテイハツト、メ申セ氏モナヒ給ハテコレマテ
トモナヒ給ハルコトソノコトサシアサカラスサリナカラ此山ニハシテ閑モ
キヒシクテタヤスクトスフモアラシ義光ハ所職ノ辭申スヤコ
ツイテシヨリ人車ヲナキモノニナシテマカリムカハイカニセキ、ヒシクトモ
ハ、カルマシカケヤツリテマカリトツルハシツレハツノ角ナラヌヤココレヨリ

カ（リ）給（ヒ）トイウヲ時秋犹引セヌ又イフ事モナシツノ時義光
時秋カ思ハコロヲサトリテ閑所ニウチヨリテ馬ヨリヲリヌ人ヲ
トヲクノケテ柴ヲキリハラヒテ楯ニ枚ヲシキテ一枚ニ我身坐シ枚ニ
時秋ヲスヘケリウツホヨリ一紙ノ文唇ヲトリイテキ時秋ニミセケリ父
時元カ自筆ニカキタル大食調入調曲譜也、坐アルヤト時秋ニトヒ
ケレハ後トテフトコロヨリトリイタシタリケル用意ノホトマツイミシクツ
侍リケル其時コレマテシタイキタラレタル心サシサタテ此レウニテソ
侍ラトテ則入調ノ曲ヲサツケテケリ義光ハカル大事ヨリテクツレハ
身ノ安否ヨシリカタシ万ニ安穩ナラハシヤコノ見免ヲ期スミ歩敷ハ
豊原教代系所刻要次ノ仁ナリ我ニ心サシヨ、ホサハスヤカニ歸路
シテ道ヲマタウセラルヘシト再三イハケレハ握ラシテソレヨリソムケル
或書者云坐三石午ト云事アリ大食調ノ調子ナリ秘苑ノナリ云

古老傳云天曆御時有秋辰元其後時信茅子時光ナリ相
次テ名アリ時光ハ即豊原氏ノ始トス

時元獨歩世上相次テ今ハ此未ノミアリ

堀河院御時
或説云堀河

院御宇三十^{ミナカ}月ノ十日アマリノコトナリケル草モユルカテヒテアツサ
マサリケルニ内裏ヨリ御使アリテイツキ矢スヘキ宣旨アリトテ
時元カモトヲタツ子ケリナニコトノ御用カト心ノウチハラモトモイツキ
糸上スト申セトハカリアリテ御使ハマカリカリ又時元装束シイテ
夕チテハセマイリヌ糸上ノヨシ申ケレハ神妙マイリタリ近クマイル
一キヨシ仰イタサレケル御ツホノウチ御前チカクシキカハユリテシ
ラク做ケルニカサ子テ宣下アルヤウ今日ハコトサラアツクホシメスヨリ
テツツリイツミラ御前チカクマウケラカシメ給トイトモナラ水上ノ
風流御心ノウチヲス、シクナシタテマツラスイニシヘイヘルコトナリ

心ニツカナレハ身モミツカナリトイヘリウチテカセ給ニス、シカリスヘカラム
曲ヲハカラヒテ一曲ツカマツルヘシト仰イタサレタリ時元カシコマリウケ
給リテ御心ノウチノス、シクナラセ給ハ盤涉^ハ調^ニヲソト案^シテ
盤涉^ハ調^ニヲソト案^シテ
水音也ケレハマコトニテタクツカウマツリケリ則主上ノ御心スシクナラセ
給ニケリ御感アリテ禄ニアツカリテマカリイテニケリ時元カ高名ト
フ申スリケル 時元語ニ云ク親父市佐時光為ソ若少シクレニキ
父ニナラフモノ 五常^ハ破^レ急^ニ畏^ル頭^ノ糸^ヲ万^ノ歳^ノ乐^ヲ解^ス也似^ク一^ノ腹^ノ兄^ノ雅^ノ乐^ヲ
属^ス時^ノ忠^ニヲ師^ト匠^トタクミテ此道ヲツタウルアヒタイマタ秘曲三大食^ハ加^ヘ品^ト云
入^リ調^ヲ平^ニ調^ヲ入^リ調^ヲサツケヌ被^スニ、秘曲ヲ傳習セシメントラモフトコロニ
時忠云ク法枕アルヘシ此法枕ト云言家灌頂^ハ兒^ノ女子^ノ云事也其^ハ初
ニ付テ献スヘキモノユミヤムカハキ一具角^ノ剣^一コシカリキヌノウラナリ似少分

ナリトテ納受セス返子フ仍他腹ノ兄公里カ許物等ヲ隨身ニテ
向ニテ云ク所持ノ財宝只コレナリアルニシタカイテ師兄ニ獻スルトコロ
乏少ナリトテ納受セラス若此物ヲ納受シテ彼ニ秘曲ヲサツケバ
師匠トタミ申キヨシイフニ公里ナククイハク一巻ノ物ヲタマハラス
トイフトモ故父長見セシメ給ラニ何不受哉トテ即納受年仍三ノ
秘曲調子等ヲウケナフニ年件時元而兄ニ勝テ右近將監ニタリ
兄二人皆雅条属ナリ 此時元白王帝 團乱旋傳習由緒フニ
ナリ若少ニメ親父逝去年ニ後土侍門大納言宗後後條習學ニ
彼大納言此兩条元師放言ニ仍内大臣殿此傳沙汰左兵衛督殿
堀河院ヨリ給儀スル皆世人ノルトコロナリ 但皇帝ハ序若破
一帖フクトコロナリ且家譜アルユナリト云ク但時光重時忠皆以
不吹也シカレトモ時元此道ヲ心エテフカク古譜曲返ヲ安スル儀也

仍家ニアル譜ヲモテ業吹云々大判官トキ制止ラハ一ス時吹合シ負
後基政雜事ヲ申承ルアヒタ彼人ノ詰ヨリ件五六帖ヲサツケシメ年
團乱旋ニイカリテハ年来由緒ヲキカス又大判官トキ貝坂ナシ
件團乱旋公里時忠常ニ付吹ナリ仍サタラヨクスニテスキ卒而去長承
元年十月廿四日大乗會上卿民部卿而仁和寺法金剛院供養團乱
旋アルニト云クシカトイハトモ雨ニヨテ毎事具ナラシテ止レ卒其年
十月大乗會ヲ行ト團乱旋アリ尤笛基政以御貞生公茂則元石
笠時秋清方不参會仰下サレタリ件条ノ笠時秋仕ルキナリ
他人ニサレユナリ仍時秋ヲ召返スニト云ク爰基政申テ云ク生
年菓ハ付物ニ依シルニラヌノサク張ハス笠ハ入烟ニ年菓ハ臨調子
小調子等秘曲トシ彼皇帝團乱旋ハ生吹執申トコロナリ
但ニ又時秋ハ時元カ子ナリ親父カ死ヲ請カシカテハ時元ハ

何今傳習シルヤ由結ヲ勅一申一キナリト申公茂則元等傳
可仕之由院宣卒別當殿彼時元カ弟子ニテマシマスユニ御
許アリ但頼吉綿譜者於吉知物一塵ヲノコサレ譜ナリ件
譜ニ固乱旋颯踏一祝ナリ正近カ祝シルサス若正近カ秘祝シラ
人頼吉カ流風ト稱申一カラス又正近カ秘祝ヲシラサラトモカス
團乱旋シニト請申一カラサル欽違違ノトヨ理非然ナリ
若御沙汰出来ントキ此云ラ陳申一ニ仍後代ノ不審ヲ敬セカ
タメニ大畧記之甚承二年八月廿日敬位大神在判云
コレ是政譜日記ナリ

或記云筑前守兼後 教上ニ宣フクキニヨリテ昇殿ヲユルサル者シ
サタアリケリ一ツコロミマシケル日キサケエラタマヒテフカセラレケル
用心ナクシテフキイタシケルホトニ官ノ中ニヒラクモノアリケルツ
喉ヲミイレテケリムセテユツキマトヒケルホトニ君上モ群臣モワラハセ給テ
ハラワタヲタチケリオホキニ烏呼ヲ表シテ昇殿ノサタモトマリニケリカル
タメニアレハコトニシイテヨク、用心アルキ事ナリナカニモ清物_{ツマ}
ニモヨカレサラコソハ先小イキニテコホミルヘシ

中院右府推定出家シ給テ後妻子ヲステ、フカクコモリ井タマフナトハ
ナカリケリタ、モトノ家ニヨワシマシナカラメテタク清浄ニシコナイテワ
スコレ給ケル筈胡飲酒ノ曲ヲキワタ_メ給ノミアラス、公事ノカタクラカラス
家ノ祝タシカニツタへ給ケル宇治ノ左府モ作法ナト申アハセラレリ
初間ニモナヲアツカリ給ケルナリヤサシカリケル事ナリ

應保二年五月八日豊原時秋ヲメシテ盤詰細ノ調子ヲフカセ
テノチ秋風条ヲ數及フカセテ我モツケテフキ給ケリサテ二三日
アリテイト病モラワセサリケルニ廿七日持仏堂ニ入テ仏前ニテ人ニ

ハカクシクモシラレ玉ハテウセ給ニケリ時秋トモニ笙ヲフキ給ケルハ
来迎ノ乐ニシホシメシヨソ一給ケルニヤトソヨソノ人申アリケル
秋風条西土来迎ノ条ナリ秋モ西風モ西トモ西ノ音ノエナリ
又云胡成卿 号三条中納言 能笙ヲ吹小治田有能方弟子ナリ

延喜五年正月廿二日御記云ク保忠笙ヲ吹六曲調頗ルナラヒナシ
橋皮トイウハ笙ヲ給フ此笙ハ故太政大臣昭宣公 弱冠ノトキ承和天皇

笙ヲナラセ給公タメニ給フトコロニ而ニ寛平年中貞名物ヲ天皇ニ
献セラルトヨリ日以後彼御記ヨリ留テ宣陽殿ニテ一給之云ク

或云ニ云ク村上ノ天皇御宇ニ奈中納言朝忠ハ御前ニ候ケリ弟朝
成ハシメテ昇殿ユリテ小板敷ニ候ス 並上小部ヨリ御進云ク

ツノカタチキワメテニク升ケナリハ笙ヲフクヨシキコモニテ 雲 和ヲタヒ
タリケル大内モヒノクハカリメテタク吹シタリケルハ貞モクナキ美不

ミケルトイリ

柳笙ノ意序ハ忠秋ニテ嫡ニシテ吹之ヲ愛ニ嫡ハ好秋其器ニアラ
其間家後トキ猪熊ノ大庭家実ノ 此曲ヲマヒテセラキテ我

子孫ノ申ニ器量ノ物作ハントキハクタシ給ヘキヨシ申ヲキテ
嘉祿二年八月六日死去 年而ニ忠秋カ 鞭子近秋実父多好節

其器量タルニカリテ先家衡ノ三位御傳アリテ貞ヨリ近秋ニサ
ツケ給ハル

好秋ハハイニエフカスニテ 文永八年七月十日卒去シ年七十九 其嫡子
久秋中御門三位宗推ノ年ヨリ此曲ヲ又傳ヘ給ル彼宗推モ即家衡

弟子也
或局云クハ笙ヲ竹ヲ切ル一ハ一月白黒三十日ノ内黒月ニ切ヘキナリ云ク

或秘局云ク唐胡長乐寺ノ鐘祇園精舎ヨリ傳ヘタル鐘ナリ

鳳皇管ノ音アリ四方三十里ニキコユルナリ
又云唐ニ浮丘ノ下ニ者アリキ高山ノ下モトラスルニ日出ク筮ヲ合スル
物ノアルカ王子晉ノ下ニテシホケルハアヤシキモノカト思テイカナルコト
問ニ我ハ王子晉ナリ仙人トナリテ天台山ニアルナリトイハケル始テ其曲ヲ
シリテ秦嶺ヨリシテ洛水ノ下ナリマテ生ラアセテアリサテ其洛水ニ
シテ仙人ニナリシ事ト云委語テ後浮丘公カズク争カ又アヒタテマウル
事ハ彼キヤト申ケルハ亦伎ヲトシテ縦山ノ下モト一月ノ朔夜キリ
給ニ必参リアハト物ホシテ去スサテノ下ニ条人許人ヲトシテ
縦山ノ下モトニワケリハリケルハ約ホノ如クアリケリサテ其処ニ王子晉カ
形ヲクリテ置クニ早龍ノトキ六件ノ所ニシテ祈ルハ必雨フルト
イヘリ

笙我朝傳來事

大同四年三月廿一日 格條ニ云ク定雅 乐雜 乐所事 唐 乐所
十二人 答笙 所一人ト云ク
嘉祥元年 格條ニ云ク定雅 条雜 色生 二百五十四人 事
答笙 四人ト
国史ニ云ク文武天皇 大和二年 正月癸未 宴群臣於兩閣 以笙
奏 五帝 太平 条
圣武天皇 天平七年 五月庚申 天皇御北松林 以笙奏 雜唐
国 雜 罗 乐ヲ

今案唐国条有笙以之推之ヲ生工我朝一後ル事
已天平以前ヨリ在之歟 推古天皇ノ御時 吳国 乐我
朝ニ後ル然 而吳条 無笙歟

仁明天皇ノ御時 音乐我朝ニカリナリ 折部 氏貞 敏及 各 大 戸 傳

上ホ斐紀ニモス経人得ルヲヤ但嘉祥四年俗云リ公生所四分
イ一リ然者ウタカフカラサル事ナリ
康保二年五月廿日御紀ニ云ク曰雅余生所九ア利茂小治田
有秋令吹笙ヲ也

古昔吹笙名人

昭宣公 三条中納言朝成卿 六条九大臣重信

以上公卿

九ア利茂 小治田有秋

代々御門御師

仁明天皇 御師近昭宣公 琴ノ徑

第二篳篥者

又名篳 又名簫 但思ハ別器ニ若以小篳篥故
涉云吹

又作感甬篥 或作篳 说文作感甬云々

美人所吹角属感甬以吹驚馬也

夫篳篥者乾芦ヲ剪削テ塞竹ニ挿リ九孔有テ漏シ五ノ音
足ス近來口吹ク者ノ誰カ名ヲ得ル閩雅老死テ李衣生名
衣今テ又老夕リ誰カ其嗣 薩氏小童年十二拍點之下所
ヲ授タリ合爵ノ間ニ天气ヲ与フ涸州ニ城高クシテ霜月明ナリ
霜ニ吟シ月ニ思テ聲ヲ発セントス山頭江底何ソ情ノ狂鳥啼
テ奥沈聴翁然タル声作テ管ノ裂ルヲ疑フ然タル聲盡テ
カシヒテ截カト疑フ急ノ聲ハ圓薄トシテ但ニシテ夕エス粟ノ籟
トシテ珠ノ貫ケルニ似タリ緩聲ハ展引テ長クシテ條アリ直ニトシテ

筆ノ端カ如シ下聲ハ乍墮テ石沉重ナリ声ハ忽ニ舉テ雲飄蕭
明日ニ公堂ニ宴席ヲ陳フ主人某ヲ命シテ賓客ヲ娛シム碎クル絲
細竹後ニ終クタリ官調一声雅ニシテ群ガリ出クリ其音靦々シテ
落道ニカス部仲將軍ニ隨カ如ナルリ嗟ル陽陶方ニ推齒ナリ子
下シテ声ヲ巻ルコト已ニカリコトシ若敷江白マテニ吹フヤマス恐リハ聲
名ノ淵李ニ壓

蘆管カ聴竹枝ヲ吹

芦管ハ塞北声也竹枝ナリ南曲ナリ小声南曲合ス悲ヲナス
同ク以旅之

函咽スル新芦管 棲涼タル古竹ノ枝枝以ニ喘ス唱ルニナリ唇門ニ
在テ吹カト疑 靡凉ハ羊菓ヲ煉フ 細妙參差トシテ勝タリ雲水
也南ノ客風沙澗上ノ兒屈原カ疲ヲ收レ夜獲武カ聽斷時録

或云本名悲葉胡中ヨリ出タリ其声悲葉今詞通典ニ記之

或昏ニ云漢武帝ノ時張騫曉猿聲ヲ孝ヒテ作之

或云曉猿聲ヲ摸シテ後漢張騫作之

或云胡乐ナリ亀茲ヨリ出タリ

或云迦陵頻ノサリヲウツスニ賀トイフナリ

或書ニ云一寸之舌ノ中ニ辨ニ説ク寸之作間ニ有云安五口ス

凡条者人心之所生也金石絲竹匏土革木謂之八音ト我朝
傳來笙笛羊菓等匏竹之器也鳳笙為法象之上宮

貝音而剛柔調和在黃而雅信心龍笛為衆声之宗其
曲ヲ而神出高麗異管而匠隨身皆是出處之妙尋

笙笛之小失也以一管ヲ尽數曲ヲ會雅乐ニ為塩梅貝器少而
厥音遠矣羊菓之德特ニ勝タリ若欽然ハ移テ迦陵頻ノ音

为箏篋蓋^シ是聖教之所^レ就也非^レ唐^ニ移^ス厥^ニ音^一箏篋
變成^ニ迦^ニ樓^ニ天^ノ十^ノ形如迦陵頻^ニ二^ノ手持^ニ箏篋^一吹^之当^レ知
此管即此天^ニ云^レ即此管若論^ニ甚^ニ深^ニ之^レ妙德^一者須^レ留^レ八^ノ音
之^レ竅^ノ頂^ノ也依^之新^ニ之^レ篇^ノ目^ヲ粗^ク取^レ簡^ニ要^一更^レ非^レ余^ノ案^ニ
悉^ニ任^ニ古^ノ傳^一又^レ为^レ令^レ見^ニ愚^ニ昧^ノ之^レ輩^一以^レ和^レ字^ヲ所^レ記^注也^レ雅^ノ嘲^ニ
詞^一短^ニ莫^レ忍^ニ道^ノ之^レ業^一而已

竹穴名

四一上 下 二 凡 五 六 古說也 未
不用之

一說

四一上 下 五 二 凡 六 當世用之

一說

四一上 下 二 凡 五 六 无

折^テ胡^ノ駒^ヲ聽^ク栖^ニ驚^ニ越^ニ鳥^ヲ知^ル石^ノ樓^ノ月^ノ下^ノ芦^ノ管^ヲ吹^ク金^ノ谷^ノ風^ノ前^ニ
折^テ枝^ヲ弄^ク十^ニ七^ニ春^ノ啼^ク聽^ク鶯^ノ古^ノ變^ス三^ニ无^ニ醜^ノ婦^ヲ戲^ク
ニ換

夫^レ箏篋^ハ古^ノ胡^ノ乐^ノ器^也胡^ノ人^ノ牧^ク馬^ヲ吹^テ以^テ驚^ク群^ノ馬^ヲ或^レ人^ノ曰
漢^ノ博^望侯^張塞^ノ西^ノ域^ニ使^シテ^レ所^レ作^レ为^ナリ本^ハ名^悲栗^又云
此^ノ管^又云^芦管^ト名^有由^也源^西別^州出^テ中^国ニ^アリ其^末也
ハ^カナル^カナ^也世^俗ノ^所傳^ルテ^レ祝^カク^コト^シ而^レ迦^樓天^ノ王^ハ箏^篋
ヲ^モテ^レ標^幟ト^シタ^マフ^身身^ノ箏^篋ヨ^リ變^成シ^テ遂^ニ其^三味^ヲ變^テ
ク^マリ^此ハ^是自^然道^理ノ^所作^諸仙^人天^ノ能^造ニ^アラ^ルナ^リ
一^音ヲ^調レ^ハ自^ラ五^智月^宮居^シ一^曲ヲ^奏ス^ハ八^供ニ^ハ供^ノ雲^海
與^ス雅^条ノ^宗供^養ノ^竅ナル^也并^レ
律^局条^圖ニ^云大^箏箏^小箏^ハ二^音俗^云此^知里^木
大^箏箏^亦

作威爾樂条部ニ云ク威爾樂加管ナリ卷シテ為頭ト竹ヲ
 為レ管ト出於胡地副法角音九孔漏テ五ノ音咸ク備唐
 以編入鹵部ニ名テ為ス加管ト用之ヲ雅条以テ為雅管六竅
 之制則為鳳管ト漢官博志以應律管者也通典ニ云ク羊
 箏本ノ名悲箏出於胡中其聲悲

或云儒者相傳胡人吹角ヲ以驚中國馬ヲ後乃以心加
 為首ト竹ヲ為管也

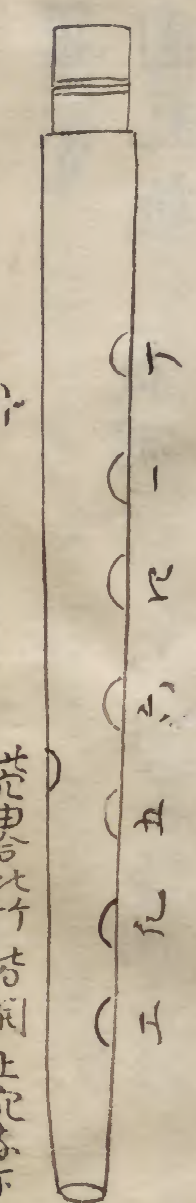
人云隋代用天ニ条ヲ今貝存者有公羊箏
 又云排皮束夷有卷排皮以羊箏也二具大鼙之容ニ鼓殊並
 吹之以節樂亦出南蛮

樂府雜錄ニ云竽箏者本龜茲國樂也亦名悲心箏有類
 於箏也

圖
 下 一 四 六 五 凡 工

一說
 四 一 上 下 五 凡 五 六 六
 次第四 一 二 下 五 工 凡 六
 一說
 四 一 上 下 五 凡 五 六 六
 依合笛ノ音以四為
 始也

古音 皆塞音也
 管長二寸
 舌 在口



同名物
 此管合比竹皆開上穴下穴由合美竹

海賊丸 或海賊逃 鷺 真野丸 皮古丸 筆丸

筆葉

皇帝 固乱旋 一被網ニアリ 小洞子 平網ニアリ
臨胡子 盤涉網ニアリ 鶯鳴音 杉取ニアリ

名物等物語

海賊丸ハ筆葉師和迹カ用光カ管ナリ彼用光スミヒノツカヒニ
西国ヘシタリケルニキヒノリニホトニテヲキツシラナミクケキテコニテ
命モクエヌヘクミエケレハカチカフリナトウルロシキマテヤカタノウニ
イテヨリケルニシラナミノフ子ヨキヨセケレハ良時用光ヒナリキヲトリイタシ
テウラミタルユエニエナラヌフキスマシタリケレハシラナミトモ各カナシニ心ヲ
コリテカツケモノヲサヘシテコキハナレサリニケリトナシサホトノコトヨリモ
オキ物ノフサヘサケカクハカリフキカセケレアリカタグハカシニシラ

オキハナシタルナサケナニアリケルナリサテツノ管ヲカクオツケタルナリ

海賊逃同心ナリ

或杞云用光ト云糸人アリケリ土佐御船アソヒト云フニクタリニホリ
ケニ安藝國ナルカミトマリニテ海賊ヲシヨセタリケリ弓矢ノユウシラ子
ハフセキクカフニナカラナシ今テハウタカヒナクヨサナナ思テ筆葉ヲ
取出シヤカタノウニイテアノイワヤ今テハサタニヨハストクナニヨモトリ
玉一但年来思シメタル小胡子ト云曲フキテキカセ申サンサル事コフ
アリシカト物語ニモシ玉ト云ケルハム子トアル物ヲオキナルユエニテメシクチ
シラクマチ玉一カク云フナリ物キカントイハケルハ船ヲサテ各シツ
マリタルニ用光今ハカキリトヲモヒケル涙ヲナカシテメテタテユエ吹出シ
テウラコソフキスマシタリケルツリカラニヤ良時波ノ上ニヒキ
ワタリテ波尋陽ノ江ノ波ノ上ニ琵琶ヲキシムカシカタリニトナラヌ

海賊シツリテ云フナシヨクキテ曲ラハルホトニサキノコエニテイハ多クカ
船ニ心ヲカケテラフシヨセツリツレ氏ノ年葉ノ音ニ涙ヲチテカリサリヌト
テツコキサリニケルクケキモノフノ心ヲナクサマルニテフキタリケニアリ
カクキ事ニコソ

或記云ク用光南海道ニ發向セシムルアヒタ海賊ニアヒテ殺害セシ
トス云ニ用光云ク我クノ筆葉ヲモテ劫庭ニ仕ヘタリ殺クハ片
時ノ身命ヲ給テ一曲ヲフカントツモフト云時ニ群賊剣ヲヒキ矢ヲ
ハツシテアヒマツ用光ナクノ筆葉ヲトリイタシテ臨調子ヲフク
群賊ヲコレキニテ感涙ヲタレテ殺害心トマリテ淡州ノ南浦ニ
下置トイフ

或説云賊首彈平ノ女ヲトリテ妻トス

賊船ノセテ数日從遊スト云

或記云昔雅楽寮ノ人ノ宿願アリテハルカニ此紫ノ宇依
宮ニ糸旛安楽寺ノカクナレハ海上ノユニハクルヲエキヌキテ
リノニツチヨリテアカシクラスホトニヒカクノ禪師トイフ人アリ海賊ノ
中ノ上手ナリイカナルタケキモクフモコレニムカフハナカリケリ
伶人ノナカニ茂光ハツトキワカクテ未度ニテソアリケル夜舟ヲ
コキテ海上ニ出カナル波ノウニアリアケノ月クマナクヤトリテ
アハレツキセヌヨリフシ彼ヒカクノ禪師ノ舟ヲシヨセテ作ニコノ伶人ノ
舟ヲリウツリニケリ本ヨリユミヤノカタウトキトモカラナク六舟ヲコニ
ソカクアヒケルソトキ茂光賊徒ニイフヤフ余命チカキニマリ
片時ノイトマヲユルシタマヘタノ大願ヲトケキ今生ノヨモヒテニ
セトイフニ禪師片時ノイトマヲユルシテケリ八幡大菩薩
ノ所感ヤアリケシ又五城守護神明ノタスケ給ニヤアリケシ

茂光小桐子ヲフキタリケル海賊心ナキミナノナミタラナカシテ
感歎ス曲ヲワリテ賊徒ニイフヤウ此舟ノウチニテ諸人ハミナ
管絃ニ名ヲエタル人ナリ而テアリテ花洛ノ雲ヲハナシテ
宇佐宮ニ系詣シテ舞糸ヲトラテ一日ノ会ヲコナフヘシト
イハレ願カムナシリシテカシコヘイリツカスニ勿心ニコノナニアヒタリ
舟ノ中ノモノハナシ彼大井ノ一日ノ会新ナリサラニ他人ノモノニアラス
トイウトキ海賊ノイウヤウナサケアル人ノ舟ナレハコトナリサマラウ
ケシマハリヌトテ宇佐宮ニテソクワケテケルマコト小桐子
ハ秘曲ノナカニテタキタシアトナシ或記云任吉相撲会ニマイリ
テ下向ノトキト云

或記云此茂光ハ早業無尤右ノ上子ナリイワレノ御座
侍リケル南都ノ常糸会ニ下向シケルニキサラキノ六羽アマリノアカ

ツギニヤコノツミウチ山ヲスキ侍テトシタルウチノアハミイリウチカ
ハニテトトトリコチアリリコ山ノフモトヲスキ侍リケルニヨリシテ天
テウキクモソラニミサリケリハルカニ東ノカタニ明星天子ノヒカリ
コトニ虚空花井ノ化現ナリケレハヨリフシ信心フカリテ合掌子ノ花モ
ヒラケテ心ノウチニシモヒケルヤウ仏井ノ衆生ヲ利益シ給事ハ縁ヲ
ムスヒタシハコト此メテタキヒカリヲモヨカミ侍レアナタトノコトヤナニ
ヲカタムケタテマツル一キトツモヒ侍リケルニコトシカ藝能ニハ音楽コ
ソハアレ秘曲ヲフキテハヤク供養シタテマツラレト思テ小桐子ノフキ
ケルニ信心ツラニ通シテ明星天子ノヒカリカウ一ノウチニナカキケリ
栗小山ノウチニ松原ノスコシタカキトシロアリ明星天子ノ多リ給テ
アラタニラカマレ玉ヒケリトイハリ
其野丸コレモ又茂光ハ管ナリ

及古丸^ハ延^キ坊ノ所^ハ門^ノ後^トキ唐^{ヨリ}諸^ノ重^宝ヲ入^テ奉^ラレ^リケ^ル皮
百^ノ豆^ニ之^{タル}竹^ノ管^ノヨ^キホ^トナ^リケ^ル六^トリ^テ彫^タル^ル家^上
モ^ナリ^ケル^ナリ^当時^ツハ^リテ^宇治^ノ室^茂ニ^{アリ}
筆^九大^納言^定能^家モ^ナリ^唐筆^ノ管^ノ大^キナル^ヲ彫^ケル^カ
名^管ニ^テア^リケ^ルナ^リ故^ニ日^家六^彼管^ヲス^コシ^クイ^サク^エラ^ルナ^リ
学^ハ大^納言^定能^家ノ^相傳^ナリ

源^定国^云管^竹太^ハ随^貝音^又細^ハ又^音細^ナリ^舌長^音太^也
短^音細^ニ其^舌太^ハ随^音又^太ア^リコ^レ言^リテ^管太^ハ短^キ舌^ヲ立^管
細^ハ長^キ舌^ヲ立^テ令^相約^其音^舌ウ^スキ^ハ日^音ヒ^ラキ^テ
不^金截^也

拾^云筆^葉吹^乐之^ハ拍^子二^拍子^三拍^子一^息吹^テ吹^テ吹^テ
夕^夕陶^ル之^コカ^ヤウ^ニ笛^吹ハ^ヤト^イニ^カハ^光則^云笙^吹切^ク吹^テ管^テ目
出^也ト^テ不^受キ^ト云^コ

人^云古^云ガ^テ筆^葉ト^云事^只拍^子吹^者也^笛ノ^キス^ツル^ニ年^葉
留^テ切^ヲサ^ツル^ヲイ^フナ^リ

或^人云^管ノ^竹ハ^ヨリ^堅カ^美ナ^リ又^云管^押孔^ハ依^音之^不清^必
根^藉成^ナリ^或大^小上^下出^来

人^云古^葉ハ^至テ^堅ヲ^モテ^兼ト^ス然^而音^リ頗^和光^愛ハ^ナル^ナリ

甚^通云^中宮^大夫^師忠^仁和^寺シ^テ仏^事ヲ^修セ^ラル^音乐^アリ^人
多^ク云^ス深^更及^テ樂^ノ工^清美^ナリ^年葉^吹キ^正延^ハ元^彼御^所
雜^色似^酒部^所管^ニ其^事ヲ^時ノ^音清^美ヲ^聞テ^情感^ニ
久^ス自^酒部^所年^葉ノ^胡子^ヲ吹^出ス^其音^仙五^ノ如^シ人^ノレ^シ
然^レテ^各感^深ヲ^撰テ^云リ^年カ^呂出^サル^キヤ^トテ^忽返^不回^テ令^呂
呂^出云^々

廣澤健正実朝ハ草葉吹此道ノ一物ナリトイフ

数家草葉ヲ用光ニテケルニ此調子ヲサツケ、リ弟子光枝ハ
此調子アリトイフ事ヲシラス嘲リテ云ク卿ナカラ是夕非常ノ人ナリ
草葉ニハ小調子ト云物ヲコソ秘スル調子ニテハ此調子ト云モノハ全
キカサルコソナリ新少将ニサツケムレウニ作生スナリト云ケリ用光此事ヲ
聞テ云ク光枝ハ弟子ナリ用光夕ヒ狂トイフトモアナカチニアサケル
一カラストハカリ云テ止ニケリ少将モ時ノ人モ用光カ作出スヨシヲ存テ
正メ用光早世後年序ヲクリテノキニ糸内裏中院ニシテ津造
アリ乐人多ク冬会ス光枝且中ニアリ或説シ後ニ新少将云
先達ノ物ヲ秘スル由事ニ大般若ヲ説クメニ山僧ヲ請ヒ下ニ時經ノ
調子共而而後次ニ詔テ云ク先年、比思カケヌ古物、中ノ物、昔
トモ云リ云クニテ無益ノ物云々ナリテ皆障子ト云ニハリ年又中ニ

黄紙、眉一巻コッハラスシテヲキクトイフ取寄テハ正法寺時ノ草葉

也其ハニ臨調子ヲカキノスルコソナリ光枝コソ聞テ顔色ナシト云リ
先達ノ物ヲ秘スルルツ貝名云クタニモ、ラサ、リケルナリ

是通云ク故ニ宮ノ仰ラレシハ式部御宮持雅三位意趣アルヨリテ
門ヲ切ニ勇從ホコシテ奉テヒツカニ行回フ三位寢殿ノ西ノ妻
内松子一箇解マケテアリアケノ月西山ノハカルツナカテ大草葉ヲ
吹スマシテ居ケリ勇從ホコシテキクニ不覺ノ涙下ケリ各ナシタラナ
カシテコレヲキルアタハス帰参シニケリ宮待テトイ給ケハ具ニ此由ヲ
申ス宮此ヲキカセ玉テ同ク涙ヲナカシテ意趣ヲ思止玉ヒケリ

此大草葉近來ハタエタリ康保三年十月七日殿上侍臣等

御説、日ハ大草葉吉水清貞小草葉良家行正ト云リ

持雅三位ノ家ニ盗人入ニ物ヲトリケリ其間三位物ノ下ニカケテケリ

盗人云云後ヤロワイテ置物ヲ厨子ヲサクルニツカニ卒業ノコレリ
コレヲトリテ吹ニ盗人ハルカニコレヲキテ心ニ感シテ紅ノナミタ下リケレハ
アハレニタエスヲホユルナテ取トコロノ物ヲ返シラキテ去卒トイヘリ此事ヲ
思フニ貝切^功入スレハ必貝徳アルヘシ

或人語テ云ク畢業吹遠理親父阿波守トシテ任国ニ下向ス遠理
ソトモニ下ル而間國中旱魃ノウレヘアリ殊ニ雨ヲ祈トイヘ凡全ク
七日辭ニテ雨下ルコトナシ为任国司代社ニ参入シテ奉幣ノ千
平調ノ小調子ヲ三反許吹程ニ唐笠許ノ雲社ノ上ニツヒキテ
即雨下ルアマツサ大洪水ニシヨフト云リ 彼能因法師ヨシシマ
社ニシテアマノカハハシロミツニセキワタセアマタリマスカシオスハカニト

鳥羽院ノ御村ノ十乐講ノツヒテ御遊アリケルニ夜フルマニ常

ヨリモ面白カリケルニ季兼孝行アニラト、卒業吹ニ依セ玉ケルツ子、
ケド^リモニス 調子ヤウナルモヲ同ニ音ニツキアハセクマヒケリ人ハモ
ノ子ヲトメテ耳ヲカタフケテキクホトニ或人笛ニテ古老子ト云条ヲ
フキイタシタリケレハ事サメニケリ畢業ノ小調子トイフ 秘曲ヲ吹テ
スルケスラヒシキ、シラテ事ヲサマシ玉ヘルナカキ、ハ子ナリト村人申スリ
或記云ク鳥羽院ニシテ十乐講トテ極楽ヲ讚嘆シタル十乐ヲ流第
ニ式ヲツクリテ月次ニ伶人ヲメシアツメテ友弦アリテツナハセ玉ケリ
貝ツイテニ御遊アリケルニ夜フルマニツ子ヨリモヲモシロカリケルニ
季兼孝行ハ兄弟也卒業フキテ依ケルニツト、ヒ申アハセテ
小調子ヲ 吹侍テ至上ノ仰ナクトモツリフシ具アリヌヘケレハ御遊モ
アリナシトイテ常ノ子トリニモニス 調子ヤウナルモノシ 旧音ニツキ合
セタリケリ人ニナモノ、子ヲトメテ耳ツカカタフケテキケルホトニ或

人横由平調ナリケレハ小老子伝テ、フキイタミタリケレハ法人與サメテ
産ツソ人トタナニケル小調子伝秘曲ヲ兄弟弟カタラヒニ吹ントスルト
法御ハキ、シリテモノク子シヤムルニ笛吹ハ成清トカヤ小調子ヲフカト
スル気色ヲシラスシテ事ヲサシタルユシキハ千ナリト、時人ハカケル
大方伶人ハ心キハメテサトリアル一キナリ、耳ニカシコソテ、秘事キナニ
気味ノフカルヘシトコソ

傳テ侍レ

或記云鳥羽院ニテ御遊アリケリ事シハリテ法御マカリイテ
ラシテリマタイマタニニ泰上シテ御遊ノナリシヲ、シニテ少月卿云
客ノユリトマルモ侍リケリ、其時敦兼イマタワカウシテ未座ニテ
ノコリサラレタリ、仰イタサレタルコトアリ、今夜ハ因アル夜ナリ月
夜ニテカニシテモ、子シニタリ天感急ノ夜ナリ、伶人ノナカニ敦兼イ
マク退出スシテ侍ハ小調子ナルコト仰アリ、敦兼ガシマリ悦テ

小調子ヲフカトシテ先子トリヲフキケルニ、烈座ノ人、思アルコトヲキカム
然ル思テ、シマシタルヨリフシ、主上廣中ヨリヨウクニスキアシテ
御音ノシタニ今夜ハ小調子サナクテアリナシト仰アリ、法ハ宣下ノウハ
ニナマカリイテラレニケリユシヲ、時ノ人申侍リケルハ、御秘苑ノアマリ
秘道ヲ、モクツホシメスカユナリメテタキ事トソ申ケル
或日記ニ云小調子ハ平調ナリ、臨調子ハ盤詰調アリ、拍調子ハ黄
鐘調ナリ、小調子ヲフカトテ、別ノ音取事アリ、或鬼云、神和合
礼ニ歸三段ノ曲也、或雷云云

或記云敦兼少将ノ卒、葉ハ天下ニ元セタル人ナリ、寛治四年
七月、比花洛ノ雲ヲハナテハルカニ吉野山ニ泰詣道スカラ、秋ノ天
ナリケレハ夕エノ、ニ早冠ナキワケルタカタマツサヲケツラシナシト
ナカシテラシミ山ヲ夕午ノホリテハルカニモシ、ミワタセハヨトノカハセナシ

イナカ 秋風ニ夕子ツ心子シテツモトノ心モロキナシクニツキツアハ
分ナキヨノナラヒカナ此度草ノ枕ニテニウノアフリトヤナリナスラント
ミチスカラ心ニヤシホエラケシウチノ河水ニウカフアハハカナキツアハカ
ナトヒトリコチテフノハステニクシ又命スナハチ減少少水ノウツコトシ
ナムノ夕ノシミカアラシ馬ニカセユリホトニ南都竹林院トイフトコロ
一宿シテ次日吉野山ニイリツカニケリ野キワソノ五堂ヨリハシテ
ヤウ入堂勝ノキ大明神マテマイリテ宿所ニ夕子カ一リテシラク
ウチヤヌミテ上ノ宮ニ糸詣シテシツカニ奉幣ナトヨニイリテシ
侍リケルホトニ家ノ秘曲ナリケル人シツマリテ神ナキナトノ神歌
シツマルホトニ小綱子ヲフキテ神明ニタムケテ宿所ニカ一リ又下向ノ
流ハ心ヲナヤシテイカナルコトツトテキ子ゴトノ石シツキカシケル
大明神ノ御夕リナリトツウチイテケルイカニモツコタリ申玉ヒケル

十三日ニカニ死ニラツシニケリ年五十八ヤマトニ勤学寺ニテアルノ邊ニトカ
クニテ墓所ハアルナシ此人南都ノ竹林院ノ先祖ノコトナリシカハ秘
曲ヲハヨク案シテサウナクスヘカラサルコトナリ此人ハ賀茂大明神
ノラシミヲホシメス人ナリケリ左右ナク賀茂ニモ糸詣セスシテ
吉野ノマイリ家ノ秘曲ヲフキタリケルヲ御下カマアリトツ申ケルツル
或記云ク志賀僧正明尊ハ本ヨリ年葉ツニクム人ナリ月ノ夜
湖上ニ管絃和歌頌物ニテ船ヲウカヘテ宴遊シケルニ危揺ノ
乐人ホ管絃ノ船ニリケルニ乐人ホ議シテ云ク年葉イミシクニク
マル人ナリ年葉アラハタタテコトニカリナトテ用枝ヲセシトイヒ
ケルハ用枝カイワリ打物ヲツカマツラントテノリニケリ遊遊ノアヒタ深
更ニツロフ用枝湖水ニヒツカニヒチリキニイレテ雷雷シテケルヲ人ニシテ
年葉カトノハ手洗フナリトコトテ九志ナク年葉ヲ吹出ヌ乐人ホ

顔色ハシウシナフヨシナキ物ヲアヒクシテ事破ストナケクニ万人コレヲ
聞ス涙ヲカス僧正又感ニタフシテ流涕シテ云ク至教ニ卒業ハ
迦陵頻ノ声ヲ孝トイヘリ此事年来信セラレ今夜ハシノテ
コレヲアラハシヌ今夜ノ纏頭ハ佗人ニスカラストテ用枝一人ニ給テアリ
以後ニモ僧正ハ常ニ云出シテナカレリトイヘリ

或人語テ云ク三宅守正カ云ク後白川院鳥羽院ニテ御船乐
アリニ卒業ヲノシクセラレ守正此ヲナケキ存スルアマリ
兼テアリ池崎ノアシ中ニカクレテアリ御船乐ハニリテ条敷返ニ及
諸卿具ヲモコラシ上皇感ヲウコカシマシヌスキサニ守正アシ中ニ
ニテ卒業ヲフリ詭人耳ヲトロカシテコレヲモトメラルニ守正ヲ
モトメイタサレハヌ上白王法感アリテ管弦ノ船ニメクセラレハヌ
家ノタメ道ノタメ誠ニ具アルナリ 同云後鳥羽院ノ御村太河

御遊後日地下ノ人等ノシクセラル此中ニ安部房道三宅守正水練
タルヨリチ水ヘイレレタリ 上皇彼二人ニ勅シテ水上ニテ卒業
ツカマシムト仰下サル爰ニ卒業遠ハ用意セサル間イフキ陸ニアカリテ
算業ヲトラス守正兼テツフサキノ中ニカクシモツユニイトシツカニ水
ウカニ午カラコレヲフキケリ 上皇殊ニ御感アリケリ道ツ
クナム人ハイツモクカヤフノ心ハセハアルキナリ西条ノ事分明記
アラス傳語ノ説ナリ

此守正正光カ子非重代ノ人言リテ秘曲等ツツタス守保カトキ
予カ親父光葛カ弟子ニナリテ白皇帝國乱旋獲合万秋乐
已下ノ秘曲ニ相傳シ早ヌ是ハ則村上ノ天皇ノ御未案守保
師任ノ御流ナリ尾張則成御侍云言リテ秘事秘曲一事ヲ
ノコサト給早ヌコレヲ祖父近貞ナニヒツタフルトコナリ

大方猶氏ノ篳篥ハ皆源家ナリ師任ハ父師時ノ弟子ニテ宇治
判官光則侍リラテ季時ハ光則ノ子ニテ同ク秘曲ヲ傳ルモナリ
当时吹ト只小篳篥ナリ穴ハ面ニ七裏ニ二アリウラノ下ノ穴ハ
ムトイフ此穴ノ名人ニラスヨクカウスニ篳篥ノ下音ノ細音ナリ
渡物ヲ吹時ニ入ナリ又古音ハ皆塞ヲ云ナリ太ク吹キナリ
凡篳篥ハ物音ヲウハフナリ目出タク吹合トテ細ク吹ツル未ニカ分
テハ篳篥ニイカモクアハス貝ヤウヲヨク心ニテ吹シウクヒスナキト
イフ事ハ狗調子ノ手也

代々御門侍師

村上天白王

侍師通大御門少尉大石寅門村ニ生時年篳篥
一物也 天慶四年二月日傳 座十六歳

第三高麗笛者

又名高麗

又伎横笛

又作拍笛

又作^{ハネ}拍笛

唐云云ク高麗笛伎横笛ニ云^{似古}高麗^{未布江}右^右条^此笛ヲモテ
吹ナリ三音アリ一越調^呂 双調^呂 平調^律 後漢陳禪云ク
拍^拍乐^或右^右条^条 蛮夷音タリトイエトモ周礼ナシコレアリイハユル
四夷ノ条ナリ

昔推古天皇ノ所時 初テ高麗国ヨリ舞師乐師ワタル
其後大唐高麗トモニ奏ス尤右相對シテ朝家ノ吉事ニ召侍也

雜口傳

昔ノ拍笛ハ横笛ノ尻ヨリサシイラレ、ホトニキイサカリケリ而ニ今
世ニ事ノホカニ大ニナリタル也
畧^畧ニク拍笛ハ幼少^{幼少}十九人ノ初キ、是ヤフニクキナリト云

成通云ク拍笛ハ幼児ノ賢キヤウニラクヘキ也是ヲ大意ニテ除
義ハ初学ノ笛吹ノ如未得良意ノ孔心シラヒモシラス孔ニ任
テ吹コレヨリテヒカユニシラシテ聞ニツケテ目出度ナリ然シテ手
キ、賢リフクナリ横笛ノコトク耳聞テ孔コトニ心シラヒテ吹合テ
吹也良法ニアラス還テ不美也

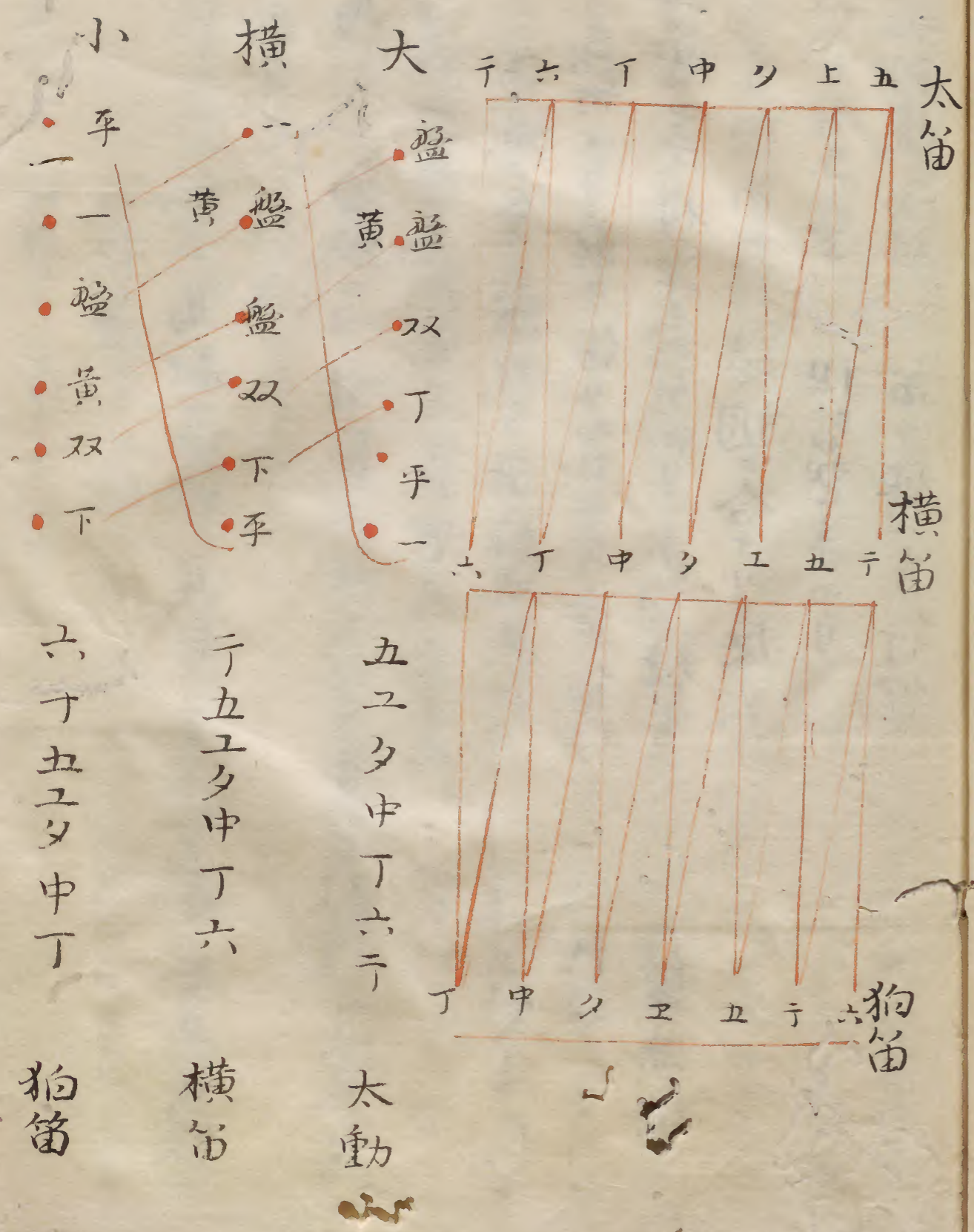
时光云ク基政カ新鳥糞吹シハ、マツカクハ解音ナノ聞ヒカ云
是聞此事也

成通云拍笛吹手ト横笛ノ手差ハ相矢如水火也而近來笛
皆不分也編横笛ノ手差ニ成タリ良内予ハ五ヲ傳ヘタ
一專礼一吹事ト云、同云右未ハ良功不空因茲初ヲ吹飛ハ
非吉良程ヲ告フニキナリ禁中ニシテホアリシ基政近章此ハ笛
基政吹連同初ニ返吹リ近章思ヒテ基政ヲハ基政ニ生息コエテ

流同初ヲ教返吹之三鼓打時元ナリ条止テ時元基政ニ対テアニ此
ハ六非名僧托近章事也

光時云ク拍笛有重永 公光公近兄弟ナリ公光出家法名公滿也
白川院拍笛ノ多立ニスルヲツナケカセ玉テ公滿ヲ博定カ師トシテ
博定傳ヘラル、間在京近衛ノ小宅ニ胡蝶急ヲ吹モ、アリ公滿
コレヲ聞テ有骨法公滿云カ此ホ習アリテ吹ヨトイ、テ聲ヲ
尋テ到ヌレハ大教院僧都中童子五童丸カ吹トコロナリ童
見公滿聞之自称公滿則引入为良師習之也五童丸ハ
近定ナリハ傍別当頼清次公滿为师之傳正清基政ハ公近
之弟子也

又云有糸ハ藤人ノ孫トコロヲ習カクテ後序吹ノ延タルモ早クナリ



三笛會圖

納序 古禪 待拍子 高麗拍子 狗犬 吉筒

成通云右樂早ニハ間ニ難列程ヲ折ラモテ事トスルナリ故ニ
 新多ノ獲ハ拍子アテ又果所在ニコミテ拍子ヲ引破テ死テ程ヲ
 延ルナリコレヲウルハシクアラワレハ程ノヤクナルナリ近來ハ此拍子
 无益ナリ如流矢一程ヲ早ク吹ハ梭既フキツレハ程ノ早クナレハ
 元返於扱江ハ未成テ可吹也譜ハ博推南宮濟政ホ被用也

第四太笛者

又名長笛

律呂樂圖云馬融善吹ハ長笛トス文選馬季長カ笛賦ニ
三(タリ)

馬融長笛賦曰唯笛因其天姿不変其材伐而吹之其
聲如此盖又簡易也我賢人之業也

長笛賦云ウ蔡邕カ所作也邕柯亭館ニ宿ス竹ヲモテ縁ト
ス良竹ナリ取テ笛ヲツルル貝音招純クリ曆代傳

此笛ヲモテ神条ニ付ナリ平調律音ニツク音ハ盤涉如テ
吹ナリ横笛ニ一越調ニ合ナリ庭火朔闇ハカリテ吹サテハ
皆ニ付テ吹ナリ但皆習手アリ

堀河院ノ侍時太笛ヲ傳レモノ行經一人ナリ而ニ所ヲ重シテ

已ニ断絶セントス 且上此由ヲ聞台テ源仲房ヲモテ御使トシテ被
仰テ云ク日比所ヲ乃ノヨシ聞台ト云凡忽ノフトモヲホシメク一何被
仰ル子ナカリツ而ニ己ニ重ルコト聞台尤ナケキヲホシメストコロナリ
太笛マサシエントス然ハ仲房ニ傳レシト云ク爰行經奏申テ云ハ
子ワナキテ笛ヲトリテコレヲサツルニアタハスト云仲房アリテ
此由ヲ奏ス重テ被仰テ云ク傳ト思台聞今己ニカクコトシ返ク
アサニキ事也シカハ太笛ハ己ニシテナトスルヤト尋仰ラセハ重テ
奏テ云清仲ニハイト矣標ニ勝トモニサツケテ勝ト云然ハ清
仲ナク太笛ノ辺物ナリト云

昔ハ拍笛モ亦遊ノ笛モ同笛ニテシ侍リケルナリ又太笛モ亦ハ横笛
一越調ニ合ホトノ笛ニテソ侍リケル此世ハハレモ今少フトクニタリ且
寺ハハレ奇ウタイノ音トモ此世ハハレモナクハフトクナシタルトコノ事

鳥羽院御時ノ事也近頃ハ申ヨハサルナシ

古人云ク太笛ハ口傳ニテフクラフキテ息ヲセムルナリ而ルニ
臨時祭ノ調子ニ是政所勞アリテマイラサルヨリテ正清ツメシ
タリケルハ孔ヲ横笛ノコトリ責メテフキタリケル法座嘲シト云ク
橋元神より石清水臨時祭明朝ニハ太笛ヲ平調ニ吹テ山城
歌テ退出ル也ト云ク

第五中管者

又名哥笛

律呂糸圖ニ云長笛短笛ノ間コレヲ中管トイフト云東邊ノ
トキ此笛ヲ用ル狗笛ノ今少シ大ナル笛ナリ近來ハ此笛ヲモチイヌ
ミナ狗笛ニテ在遊ヲハ吹ナリ

狗調子哥出シ於保比礼コレヲハ笛ハカリニ吹サラテハ哥ニ付テ吹也

又求子駿河舞ヲハ諸舞トイフ求子ハカリヲハ片舞トイフ
哥モ則諸舞ノトキハ初ヨリ哥之片舞ノトキハ第一ニヨリ
哥之

拍調子皆フリトキハ大調子トイフ片舞ノトキハ少調子トイフ
拍調子ノ奥ヲフクヤウアリ口傳ヲウクヘシ

ウホマノアマノハヨモマニキテフリケシツテヤケフノハフリコ

駿河國山トハニ天人ノヨリテマニリシコトナリアツマアリヒ
トテマニアルハコレナリ野使ノミテマニヒツタヘタルナリ東國
ニテノコナルユニアツマアソヒトハナツケラレタルニコソ

或記ニ云人五七八代安閑天皇法宇教到六年丙辰歲駿河國
宇戶濱ニ天人アマクタリテ歌舞シタマヒケル用瑜カ骨タヲヤ
カニシテ海岸ノ春ノヤナキヲナシク回雪ノタモトカロリアカリテ

江浦ユク一ノカセニヒルカ（リケルヲ或翁イサコヲホリテ中ニカリレ
イテミツク一タリト申セリ。今テノ東遊トテ公家モ諸社ノ
行幸ニカナラスコレヲモナケラル神明ユトニ所納受アルユ一ナリ
只翁ハスナチ道守氏トテ今テニ世ニテモ侍ニトカヤ
第六ノ八者

又作筧笈

律局・乐团云クコレヲ短笛トス

或局ニ云ク尺八ハ昔西園ニアリケル猿啼ケル音ノステナカリ
ケル貝カ臂ノ骨一尺八寸ヲトリテ造リ始テ吹タリケルナリ
尺八ハ名ツケタルナリト云ク

昔聖德太子生馬山ニシテ尺八ヲモテ養真者ヲマシハス
イヘリ即法隆寺ノ宝物ノナカニ尺八一管コエアリカシ淨物トナリ

天台山慈覺大師 音声不具ノアヒタ尺八ヲモテ引声阿弥
陀經ヲキツクシメタマフ成就如是功德花嚴トイフ
フカヒ恰サリケル常行堂ノ辰己角ノ相靡ニテフカセ分タリケルニツラ
ノナカニ音アリテ告ニテ云クヤノ音ニ加ヘト云ク自是如是ヤ
音ハ加ルナリ

貞保親王又コレヲフカセタマフ五昭君トイフハタテ侍リケルヲ
彼親王尺八ヨリ横笛ニウツサレタリ

禪定殿下ノ仰ニ云ク尺八ニアリ長キハ大笛タリ短キハ小笛
ノ音ニ、シリト云ク尺八ニホシ吹テ昔ハアリケル氏近比ハナキ
ニテ侍ル保元三年正月廿三日内裏ニ丸近將曹清原助祓カ
子ニテ侍リケルモノ仰ヲ承テフルキ譜ヲモテフキタリケルメツラ
シカサケル事也

新録トイフ文ニイフ保元三年正月廿日内裏ニ尺八ヲリト云
第七諸樂秘傳者

三大曲者

大曲者 皇帝 團乱旋 春鶯囀等也

中曲者 万秋果 秋風乐等也 或万歳乐 慶雲乐

小曲者 枝南良君子亦也 中大曲者 五常乐 破夜半等也

中小曲者 蕪合破亦也 大團相是 大曲 中團是 中曲

小團曲 中懸相 只拍子 迂陪相 只拍子 是也 蕪莫女是也

詠類相 序也 皇帝是 蕪合五帖ニテ連以相乱序 乱序也

序分相 皇帝蕪合三四帖是 十分相 秦王家凉列也

七昧

連詞標 乱序 乱色 或累操 調子 大團操 大曲拍子也 四十太曲亦也 中團操 中曲拍子 普通乐拍也

小團操 小曲拍子也 枝南亦小曲也 中弦操 延名只拍子也 中大曲操 目州亦拍子也

已上七昧是也

三差

宗尖操 大只拍子也 板拍也 仲尖操 中只拍子也 輪鼓禱脱体也 中小曲操 皇庶章急体也 笛利吹 時普通ノ早キ拍子ニテ

已上七体 三差ノ十操是ナリ

三曲吹極者

音聲吹シモテ大曲吹ト号ス由利吹ヲモテ中曲吹ト号ス
常乐拍子ヲモテ小曲吹ト号ス

四大曲者

蕪合 春鶯囀 皇帝 團乱旋

十一中曲

五常乐 破 春楊柳 夜半条 輪臺 青海波

朝小字

林順中大曲也

罗陵五破

新罗陵五破

王昭君破

五中曲者

甘州 柳花苑

師子破急

獲合急

合歡塩

三喘吠

倍臚 輪鼓禪脫

獲莫者

二仲吠

拔頭

還城条

又順吠

胡飲酒破

劍氣禪脫

中曲 六十一

但切六十六半之 三臺二臨皇慶 八光祐方秋乐切也

小曲三十二

但廿一也 一者 以前条急共也

連詞安摩年

大曲四 中大曲十二 中小曲五 中曲六十一 喘吠三

仲吠二 小曲三十但廿連初五 乱序 序曳累也

凡震且乐七百也 後日本条一百八也 此外条日本所作

也但立部有八部条本朝後三未渡五号百八之内也

上无初下无初各本条无之

凡高器乐八百也 後日本条者三十六 此外乐日本所

作云

音乐七休并三差彼此合十種

大曲 仲曲 小曲 仲絃 喘吠 曳累 連初等也

大回操 仲々 小々 仲絃 喘吠 曳累々

連詞々等也

三差者 仲大曲 仲少曲 仲吠 此三差

加七体十操云々

大曲者

每言強押安言当小拍子無小息所謂四々大曲努々不可吹只拍子但於籥合鞞鼓有八声大同乐破知々

中曲者

言未当小拍子言未当小息以言小拍子可旁三或小息三六置拍子以勿示当三大同乐二帖知之

少曲者

言綾閑安言当小拍子未息少延也是不可吹只拍子大同条急知之

仲絃者

只拍子異名也付仲字事隨時可为只拍子乐等也打重二拍子间可吹閑延未息不可延強永似喘吠操大同条二帖知之

喘吠者

雖似只拍子二拍子打重延未息但喘吠操全不可吹少曲者也倍脈輪鼓禪脱大同乐二帖知之

曳累者

謂是序吹者也只曳累云 大同乐序知之

連詞者

謂之調子吹也。是連詞云。又云。乱声者。雖似連詞。是制
非連詞。非成季云也。是乱詞云。又案摩乱序者。連
詞也。

三差者

仲大曲 仲少曲 仲吹等也

仲大曲者

四ヶ六以外大曲名。仲大曲是。難之。仲大曲無指用者。如普通
而者。軌大曲不可吹。只拍子云。頗於四ヶ大曲。只拍子。努不可吹也。
大同系破知云。

仲少曲者

乍少曲可吹用。无末押息臨時可用。只拍子也。

仲吹者

謂喘吹糸。或時有用。只拍子事。雖音。不可吹。只拍子。喘吹三
糸中有用。只拍子。示也。口傳云。拔頭還城乐。

竅秘記云

押拍子有糸者。大曲中曲。中大曲以上三種也。押拍子无糸
者。中絃中吹中少曲。以上五種也。合加八種也。

抑等七諸乐。秘傳事。當家強ニヤセサルナレ。吹物亦
ツヤテニルセルナレ。十六存知。タニニルニセ。侍リ心エサル事。コレ
ツミト云。凡タツ子サタスルニシヨハス。

明德三年申七月十三日。后馬終年。朝葛自筆本也。

正六位上行右近衛尉豊原朝臣量秋

